

伐跡群落

Plant communities in clear-cut area

〈相観〉落葉広葉樹の低木林および草原。低木林は群落高1.5m程度までで、密生して叢状となる。

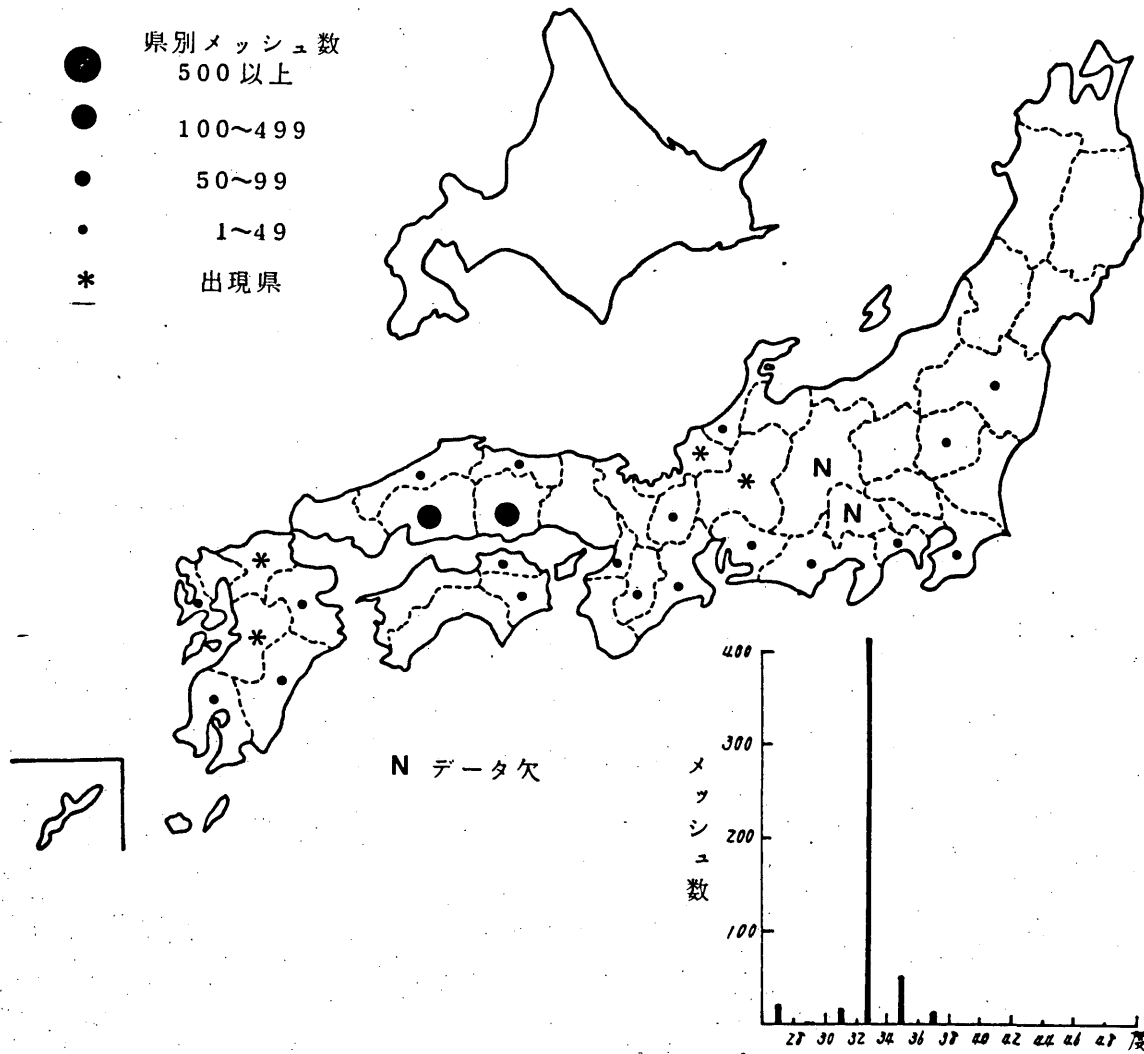
〈生育地〉ヤブツバキクラス域の森林の伐跡跡地にみられる。伐跡直後は林床が陽光にさらされ、粗腐植の分解が急激に進んで、立地は著しく富養になる。伐跡後2〜3年のうちに、表層土は流去し、立地は貧養となり、しかも絶えず強い陽光にさらされているため乾性になる。さらに伐跡後の経過年数が増加するにしたがって、植物の枯死体、腐葉によって粗腐植が形成され、立地は次第に中養、適潤性となっていく。

〈種組成〉伐跡直後の富養な立地には、ベニバナホロキ、ランドホロキ、ヒメムカシヨモギ、オオアサシケノキ、アメリカセンダングサなど、冠毛などによって定着繁殖するキク科植物が優占し、一〜数年で草本植物群落を形成する。伐跡後数年を経過し、立地が乾性、貧養化するとともに、エミジイセゴ（ツバノエミジイセゴ）、ナツシロイセゴなどのキイセゴ属植物、ノイバラ、イヌサンショウなどの有利植物が優占し、低木林に交替する。この低木林にはアカメカシワ、フサギ、アルテ、カラスサンショウなどの好陽性中高大木、ニレキウソギ、ウツギなどの好陽性低木も多く混生している。さらに伐跡後の経過年数が増し、立地が中養、適潤性になるにしたがって、これらの低木林の中に伐跡以前に成立していた森林の構成種が芽ばえ、シイ、カシ、クヌギ、アカマツ群落などに復元していく。

〈群落の特徴〉ヤブツバキクラス域の森林の伐跡跡地にみられる低木林または草原である。伐跡以前に成立していた森林、立地の地形、土壌条件、伐跡後の経過年数など、環境条件の差に応じてさまざまな種組成、群落構造の植生が生育している。

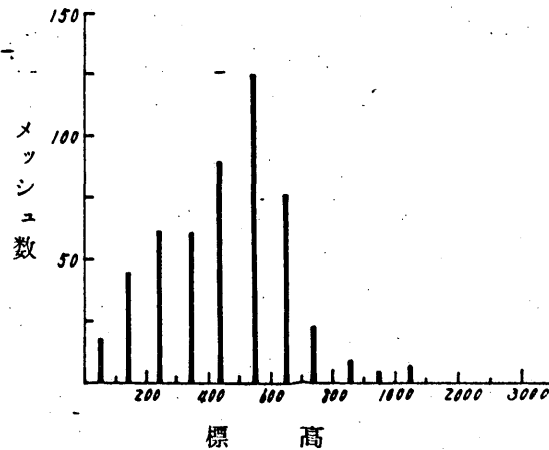
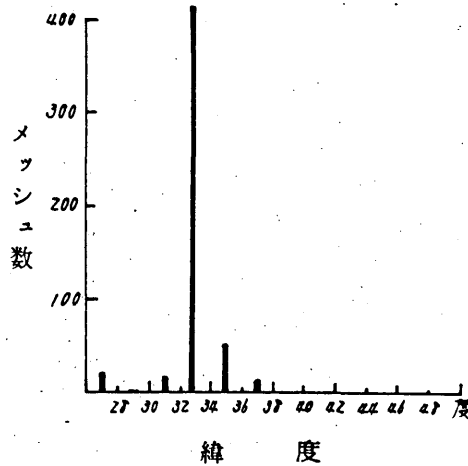
*70300 伐跡群落

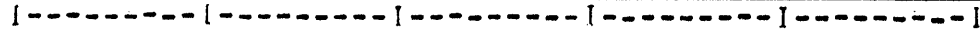
- 県別メッシュ数 500以上
- 100~499
- 50~99
- 1~49
- * 出現県



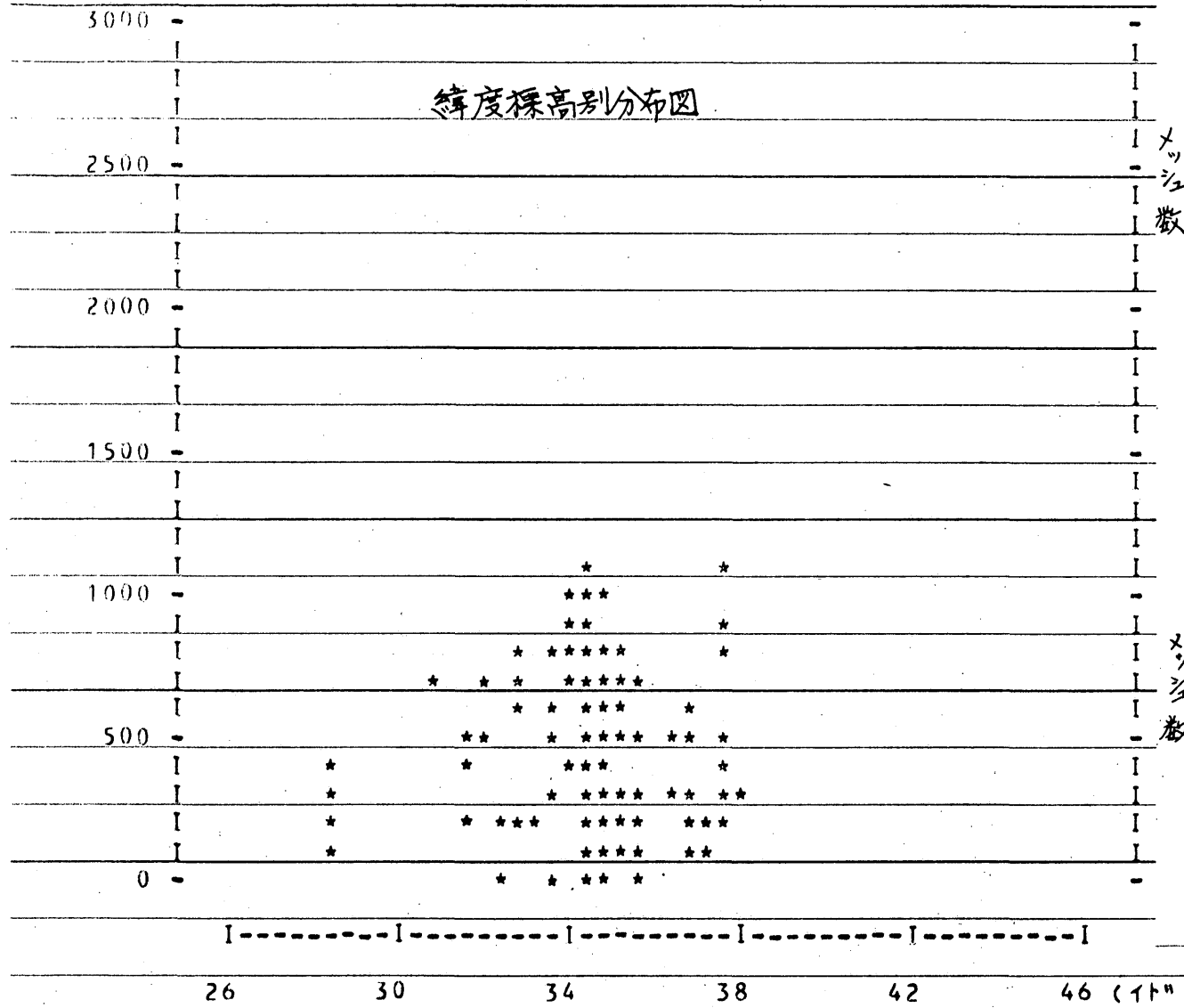
コード	群落名	メッシュ数	出現県
70300A	伐跡群落	506	福島, 栃木, 神奈川, 石川, 岐阜, 静岡, 三重, 滋賀, 大阪, 奈良, 鳥取, 島根, 岡山, 広島, 徳島, 香川, 福岡, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島
70300B	伐跡跡地群落	-	
70301C	ベニバナホロキ-ランドホロキ群落	8	岐阜, 宮崎, 鹿児島
70300D	伐跡跡地群落	1	千葉, 福井
70302E	フサギイセゴ-ウツギ群落	1	岐阜, 愛知
	計	516	

* 1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のおとしは、群落

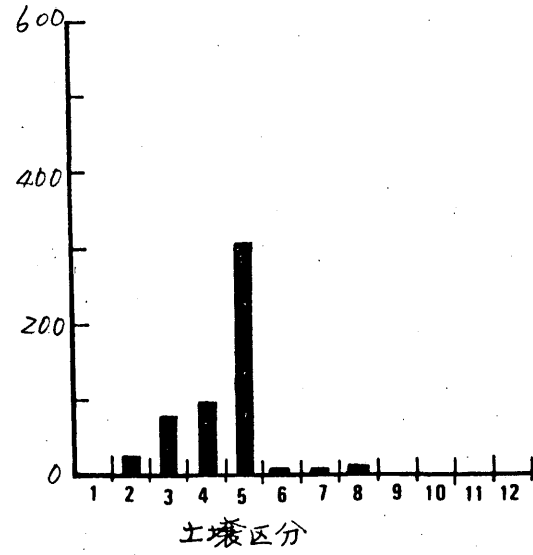




緯度標高別分布図

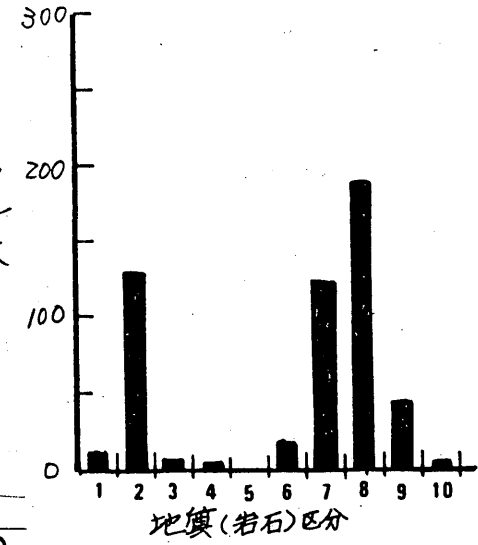


土壌区分別頻度図



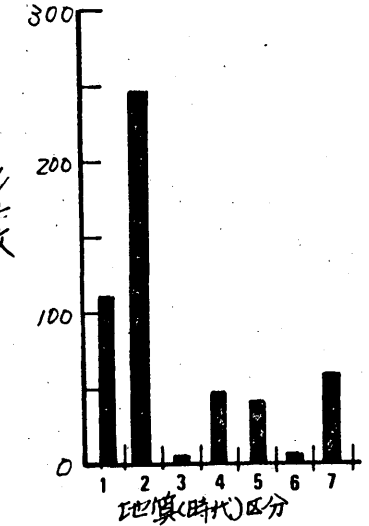
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ポドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



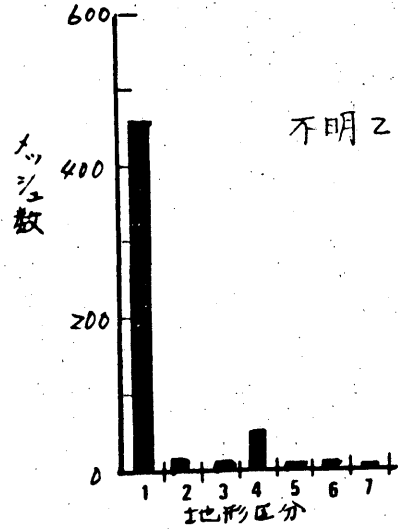
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



不明

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

ススキ群団

Miscanthus sinensis

<相観> 落葉性の高草イネ科草原。

<生育地> 山地部の森林伐採跡の放置地、植林地などに2~4年目にあらわれ、定期的に火入れされる放牧地や採草地にもみられる。平野部では河川の堤防、河川敷、耕作放棄後2~3年目の畑、造成地などにみられる。立地は通潤性~やや乾性である。大部分が二次遷移の途中相である。

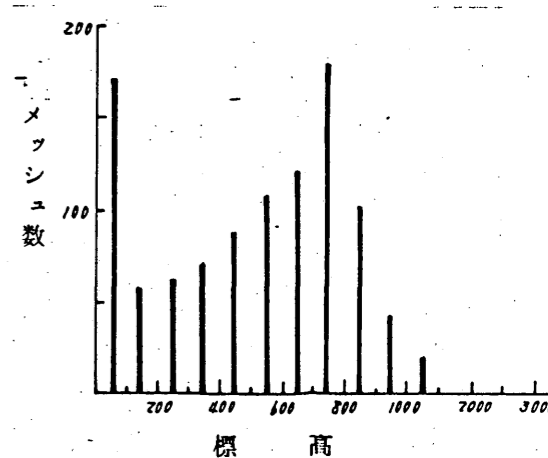
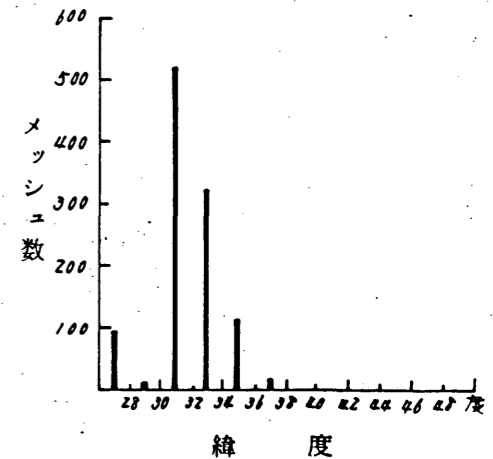
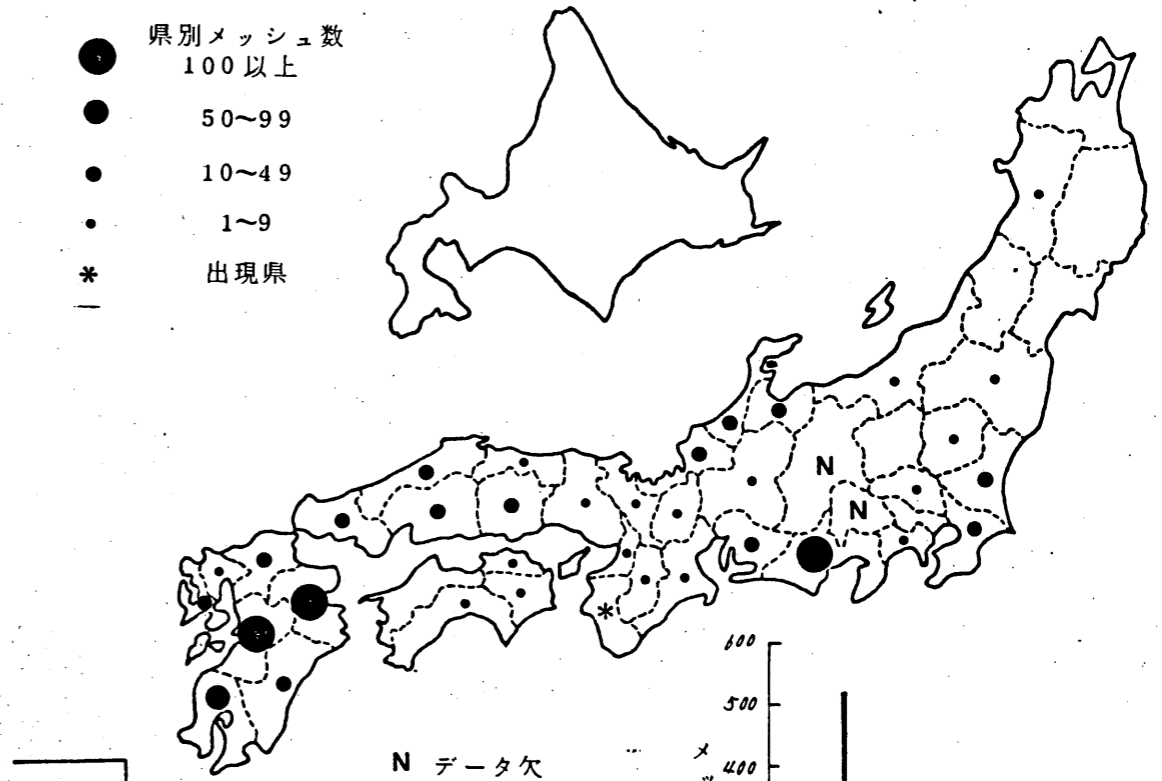
<種組成> ススキが優占し、次の地、チカヤ、トクシバ、アズマネササ(本州中部以北)ネササ、ケネササ(本州中部以南、四国、九州)など、イネ科植物とワケの植被率が高い。これらの植物に混って、シラヤマギク、オトコヨシギ、オカトラノオ、ツリガネニンジン、サフヒヨドリ、アキノモリンソウ、ミツバツチグサ、ワレモコウ、ワラビなどの多年生草本植物や、ヤマハギ、マルバハギ、キフネヤナギなどの低木が生育している。ススキ草原成立後数年を経過した群落では、モミジイケゴ(チカバノモミジイケゴ)、フミイケゴ、イヌカンショウ、サルトリイバラ、テリハノイバラなどの好陽性の有利低木やヌルテ、アカメカシフ、ゴンスイなどの好陽性高木が侵入している。

<群落の特徴> ヤブソバキクラシ域の森林、植林地伐採後数年の跡地や、採草地、火入地などにみられるススキの優占する草原である。日本の代表的な二次草原である。

<その他> 第二次大戦直後まではススキ草原は採草地としてひろくみられたが、今では植林地にかわるつつあるところが多い。

*70600 ススキ群団

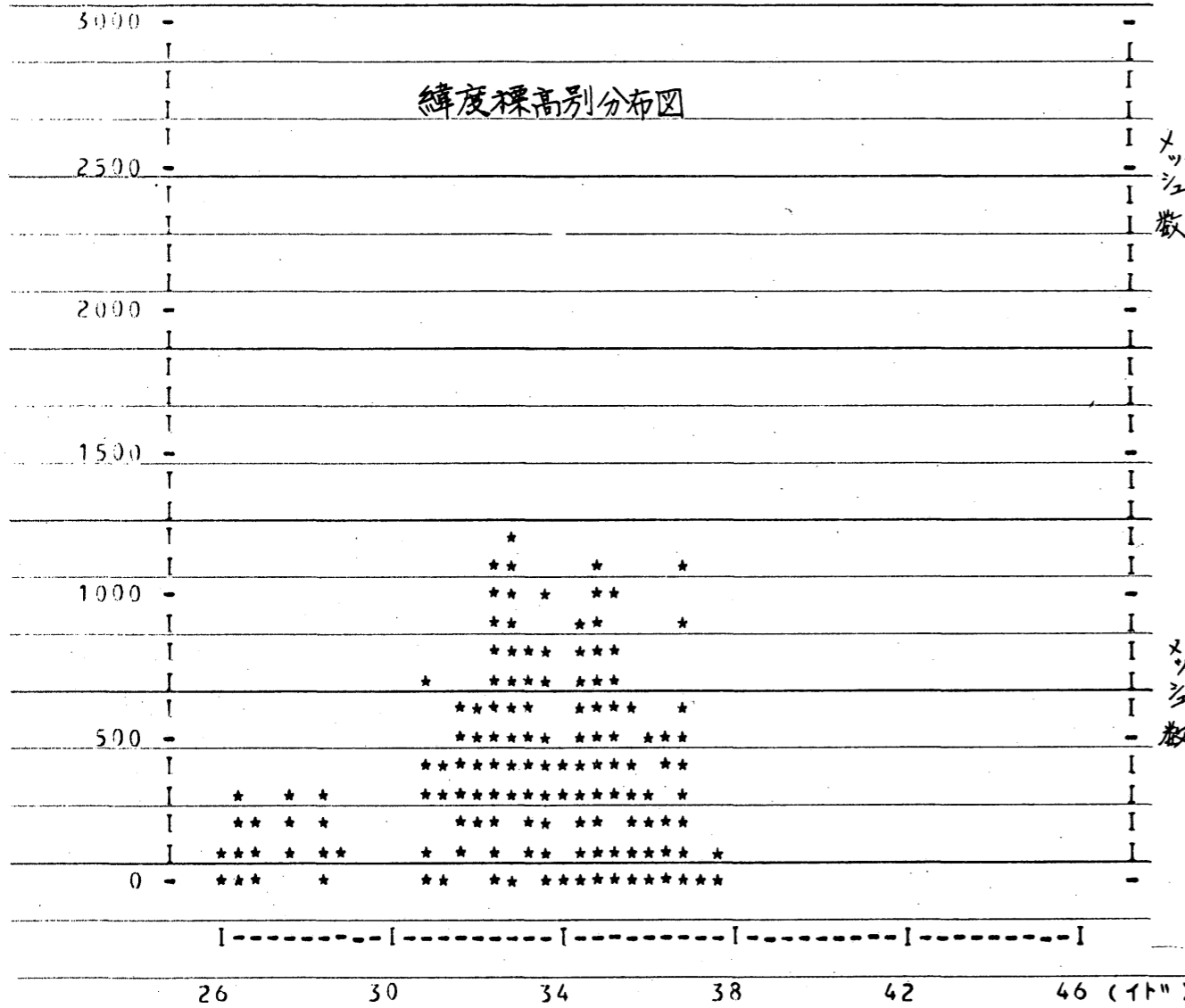
- 県別メッシュ数 100以上
- 50~99
- 10~49
- 1~9
- * 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
70600A	ススキ群団	352	福島, 茨城, 栃木, 富山, 静岡, 福井, 滋賀, 京都, 岡山, 和歌山, 広島, 山口, 高知, 徳島, 香川, 奈良, 佐賀, 宮崎, 鹿児島
70600B	ススキ群落	29	山形, 新潟, 三重, 鳥取, 島根
70601C	ネササ-ススキ群集	38	岐阜, 愛知, 大阪, 兵庫, 福岡, 宮崎
70602D	アズマネササ-ススキ群集	25	埼玉, 神奈川県, 石川
70602E	ススキ-アズマネササ群集	20	千葉
70603F	チカヤ-ススキ群落	85	神奈川, 愛知, 島根, 福岡, 宮崎, 鹿児島, 沖縄
70603G	ススキ-チカヤ群落	15	千葉, 長崎
70600H	スキートクシバ群集	197	大分
70601I	ネササ-ススキ群落	291	熊本
70602J	アズマネササ-ススキ群落	9	茨城, 栃木, 福井
70603K	チカヤ-ススキ群集	5	秋田
計		1066	

*1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもとより、群落

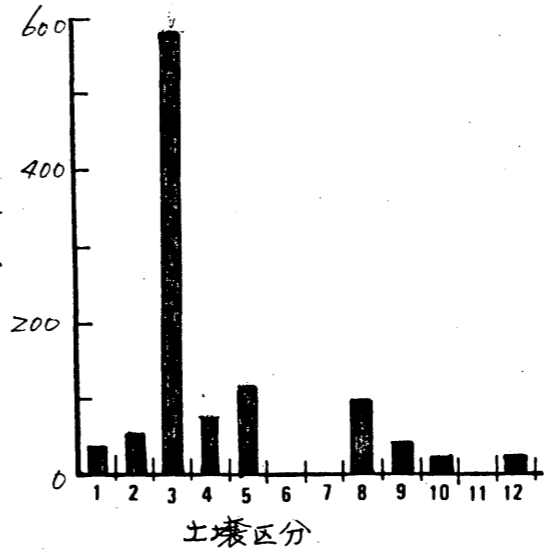
緯度標高別分布図



メッシュ数

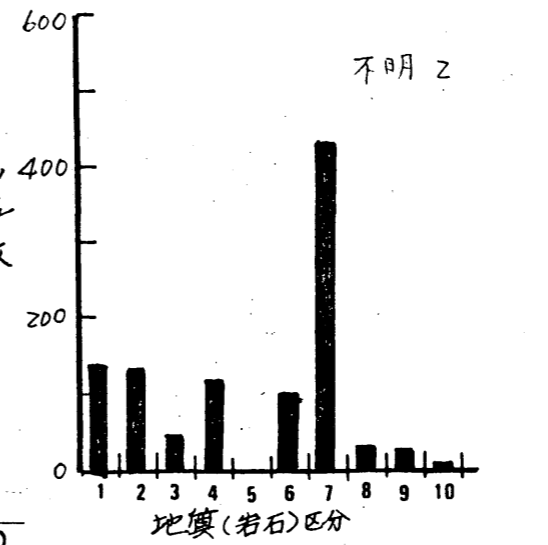
メッシュ数

土壌区分別頻度図



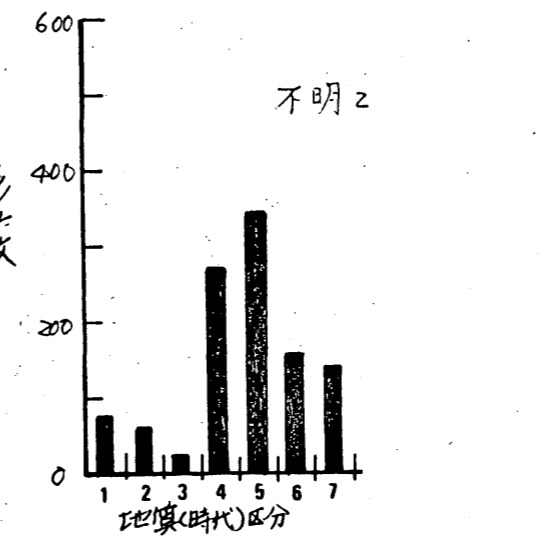
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



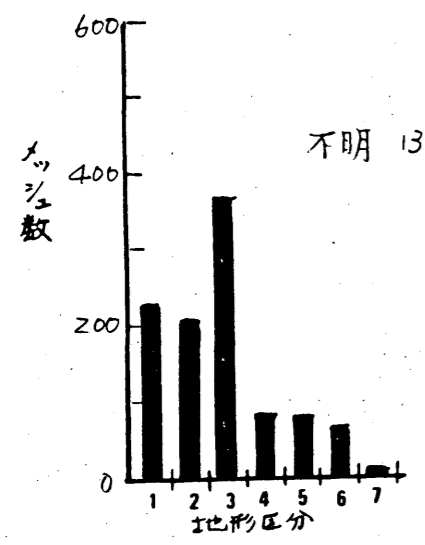
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰物, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 坡丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲

アカマツ群落 Pinus densiflora community

<相観> 常緑針葉樹の高木林, 亜高木林, 3~4層構造

<生育地> ヤブツバキクラス域の丘陵から山地下部にかけて広くみられる。尾根筋や斜面上部, 岩角地などの乾性で表層土のうすい貧養立地に成立している。

<種組成> 高木層にはアカマツが優占し, コナラ, ヤマザクラ, カスミザクラなどが混生することもある。亜高木層は欠くとも多いが, アカマツ, コナラ, ヤマウルシ, ヒサカキ, ネジキ, などにより構成されることもある。低木層には ツツジ類とヒサカキの出現率が高い。ツツジ類ではヤマツツジがもつとも広範にみられ, 地域によりトウゴクミツバツツジ, コバノミツバツツジ, オニツツジ, モチツツジ, などが特徴的に生育している。その他, リョウブ, ナツハゼ, ネジキ, アセビなどの乾燥に強い種が普遍的にみられる。草本層には 4ゴユリ, ヤブコウジ, ジャノヒゲなどが生育し, 西日本では コシダ, ウラジロの出現率が高い。

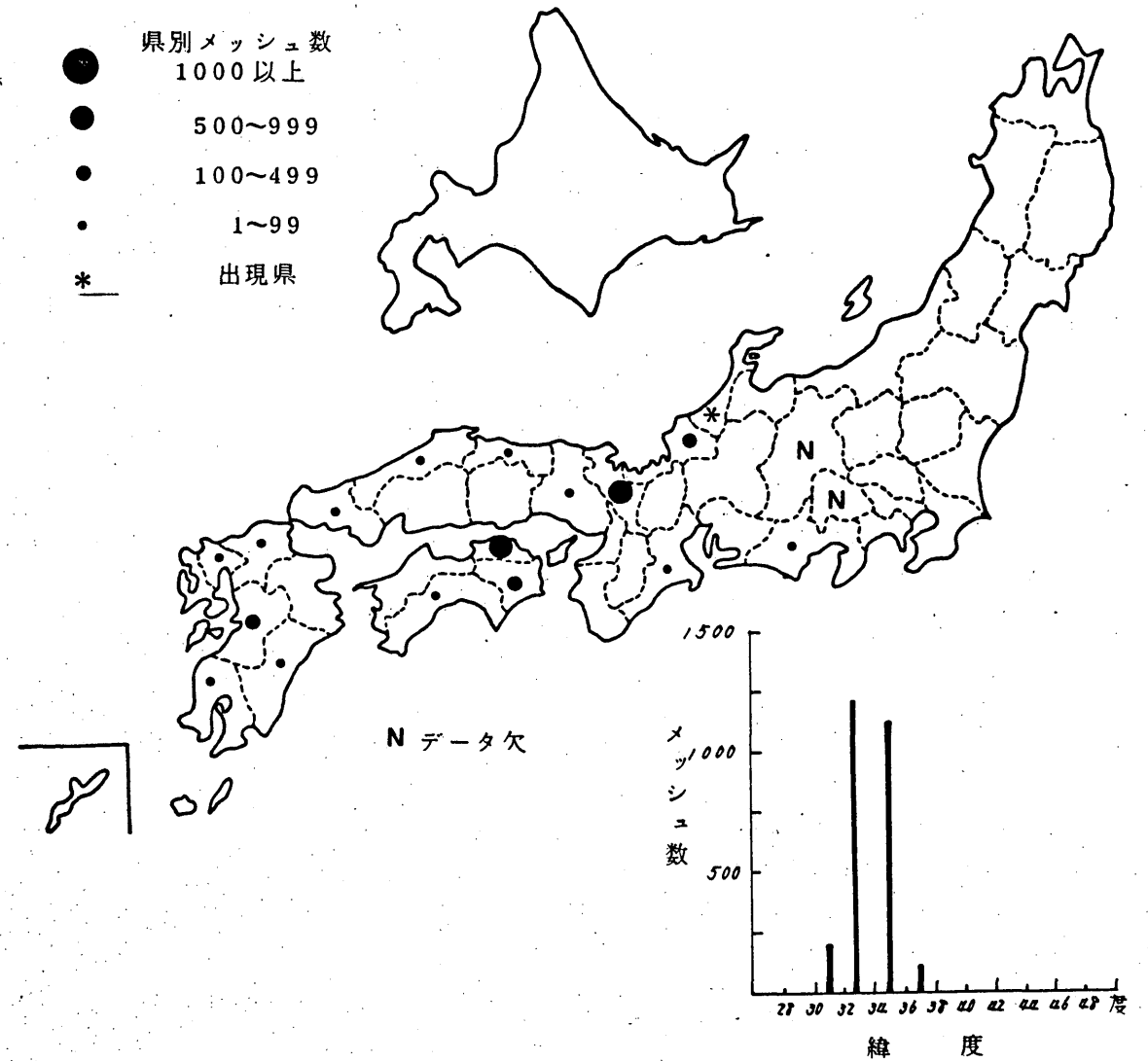
<群落の特徴> アカマツ林はコナラ林とならぶ代表的な二次林で, ヤブツバキクラス域からブナクラス域にかけて広くみられる。高木層にアカマツが優占することとを除けば, コナラ林と組成的にはほとんど違わない。アカマツ林は低木層のツツジ類とのむすびつきにより, 群集に分けられる化傾向にあるが, 同定がむずかしい地域では アカマツ群落として表示されていることが多い。

<分布> 東北から九州まで広く分布している。

<その他> アカマツ林の分類については古くは, 鈴木ら(鈴木薄井, 1953, 鈴木北川, 1954, 薄井, 1954)により試みられ, 吉岡(1958)などにまとまった研究がある。最近では豊原(1973)などによりまとめられている。

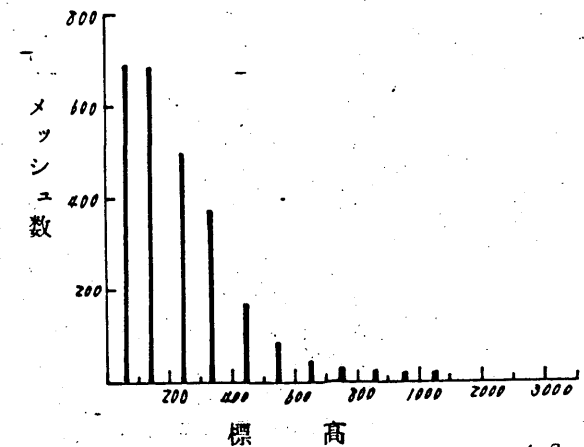
*71000 アカマツ群落

- 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- * 出現県

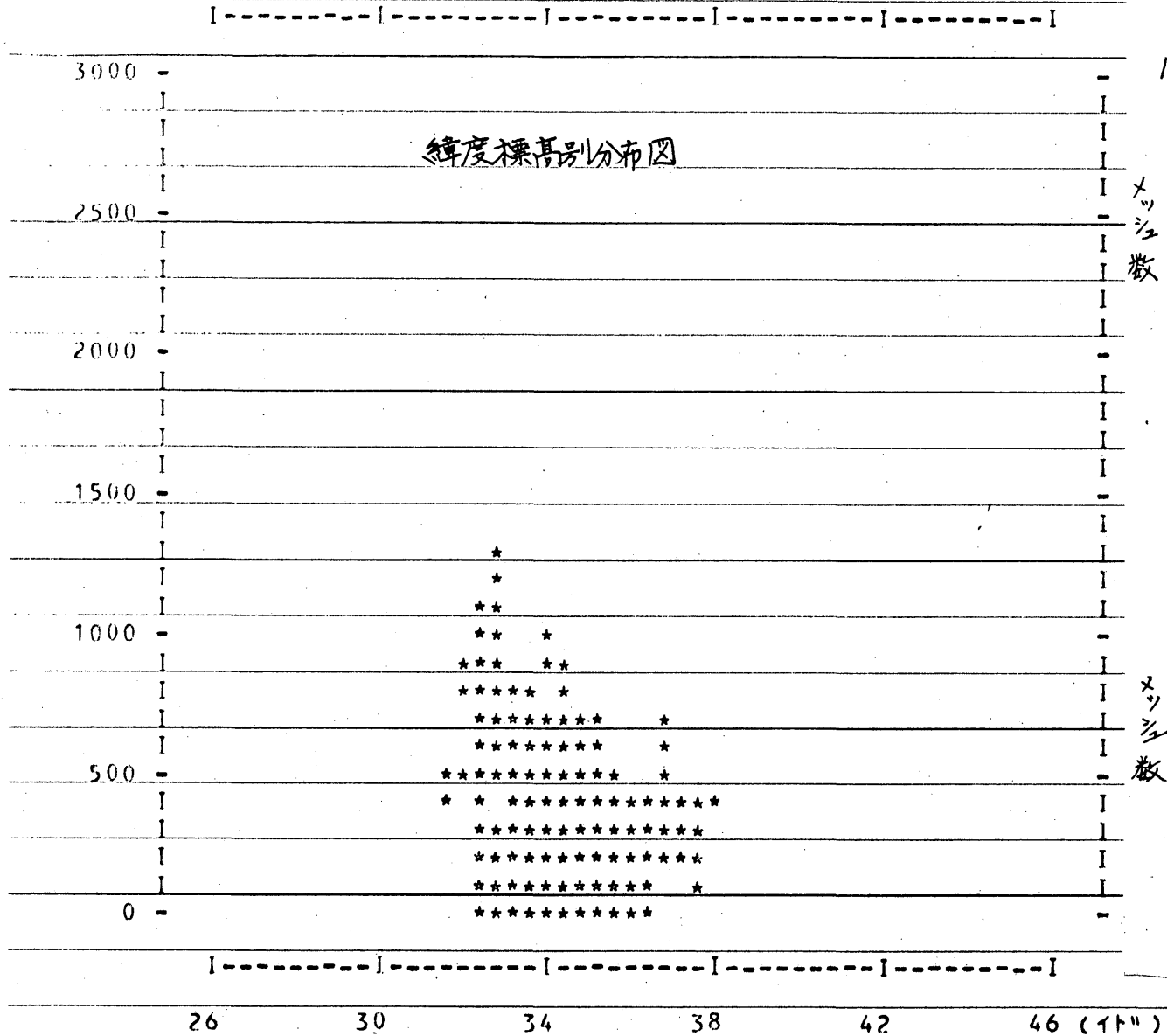


コード	群落名	メッシュ数	出現県
71000A	アカマツ群落	2680	石川, 福井, 静岡, 三重, 京都, 兵庫, 鳥取, 島根, 香川, 高知, 福岡*, 佐賀, 熊本, 宮崎, 鹿児島.
71000B	アカマツ-アカシ群落	0	福岡.
	計	2680	

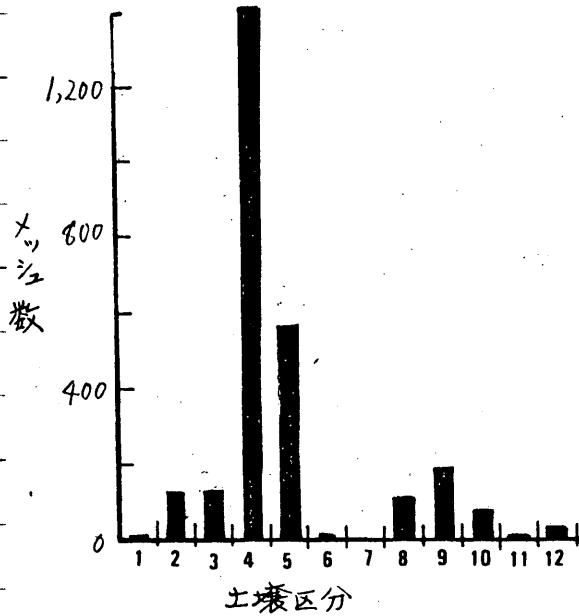
* 1県で2群落以上出現する場合, メッシュ数のむしろ多し。



緯度標高別分布図

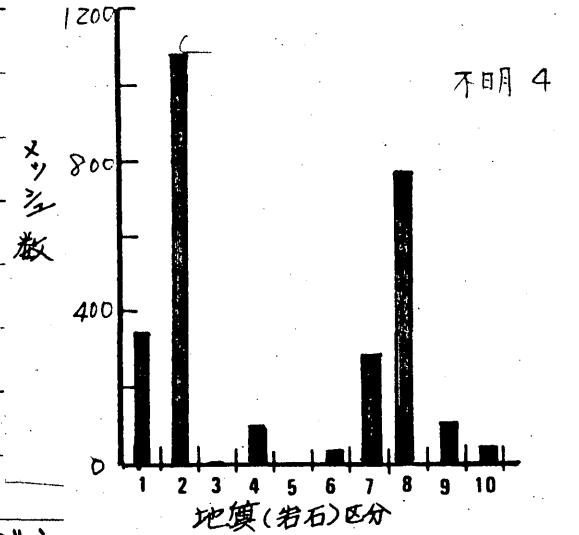


土壌区分別頻度図



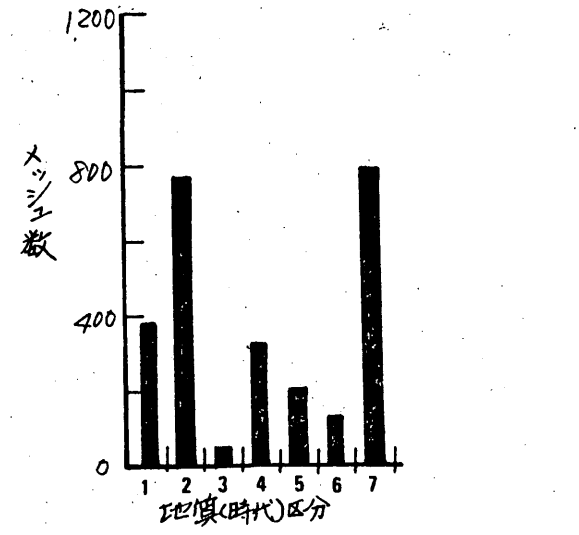
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



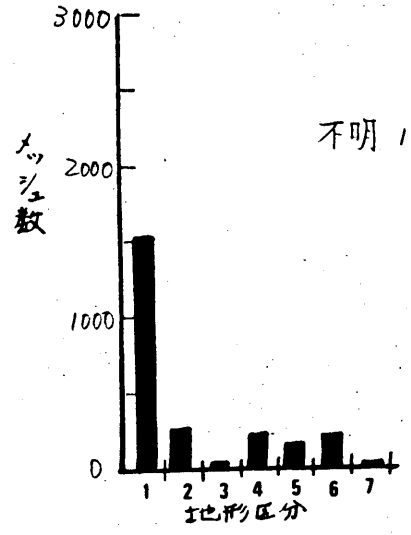
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州

不明 17

ヤマツツジ-アカマツ群集 *Phododendro-Pinetum densiflorae*.

<相観> 常緑針葉樹の高木林, 亜高木林 3~4層構造

<生育地> 丘陵, 山地の乾性地に成立する. 尾根筋, 岩角地急傾斜地にみられることが多い。

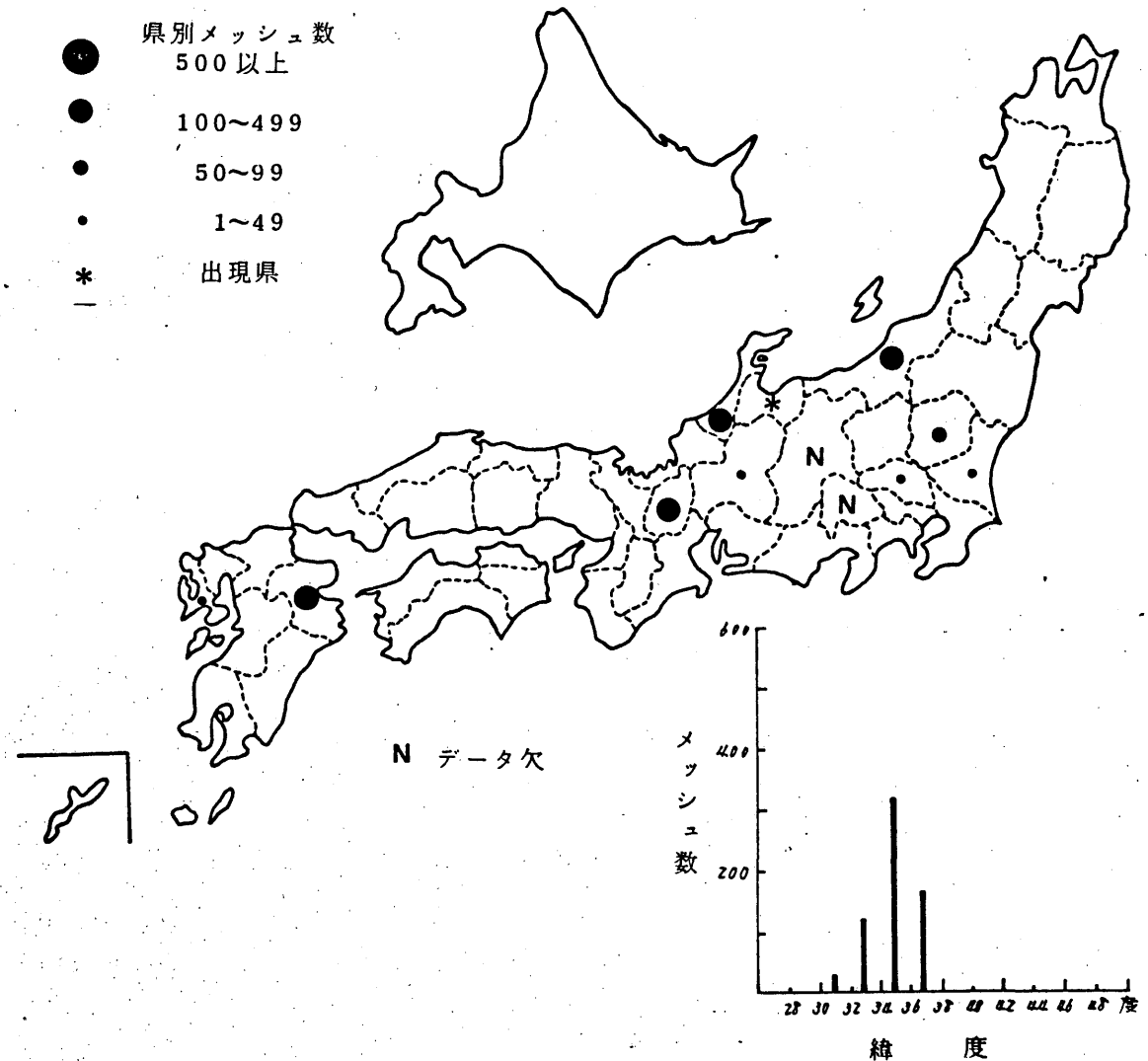
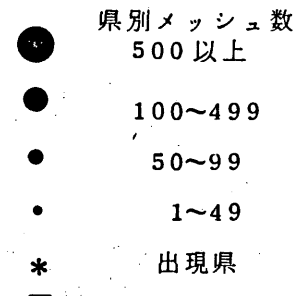
<種組成> 高木層にはほとんどアカマツ一種が優占している. 亜高木層は又くことも多いが, コナラ, フリ, エゴノキ, ネジキなどによって構成されることもある. 低木層にはヤマツツジ, ネジキ, ナツハゼをはじめ多くのツツジ科植物が生育している. 草本層にはシユラン, イヌツゲなどがみられる。

<群落の特徴> ヤマツツジとのむすびつきによって特徴づけられるアカマツ林の二次林である. ツツジ類とのむすびつきによって特徴づけられる群集のうちではもっとも広域的にみられる. アカマツ植林とは組成的にも相観的にも明瞭な相違は認められず, 識別は困難なことが多い。

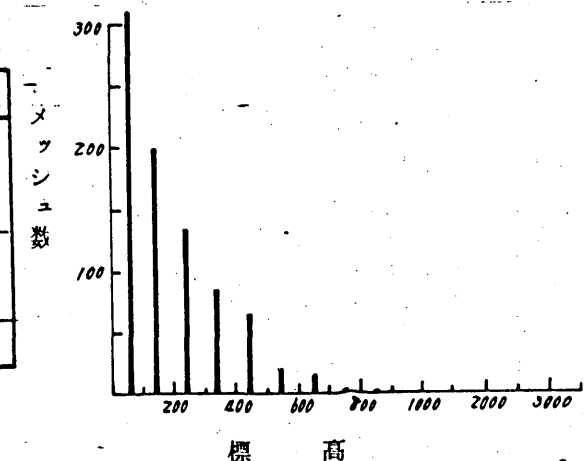
<分布> 関東, 北陸, 中部近畿, 九州の各地方から報告されているが, 西日本ではモクツツジ-アカマツ群集, コバミツバツツジ-アカマツ群集などの方が多くなる。

<その他> 鈴木(1966)にも報告されており, ここでは東日本と, 中部九州山地の火山灰土のアカマツ林とされている。

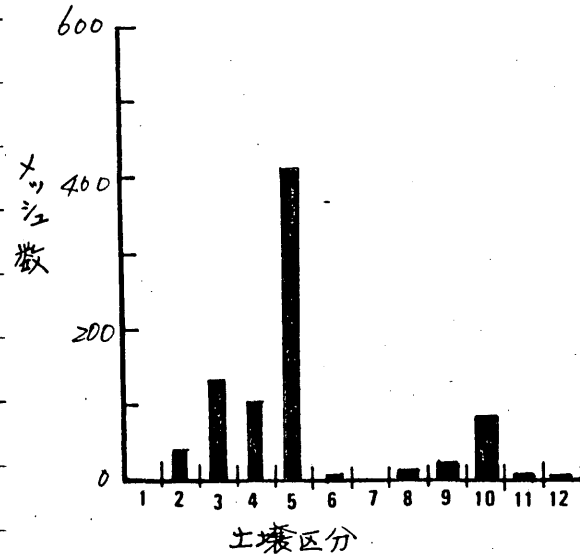
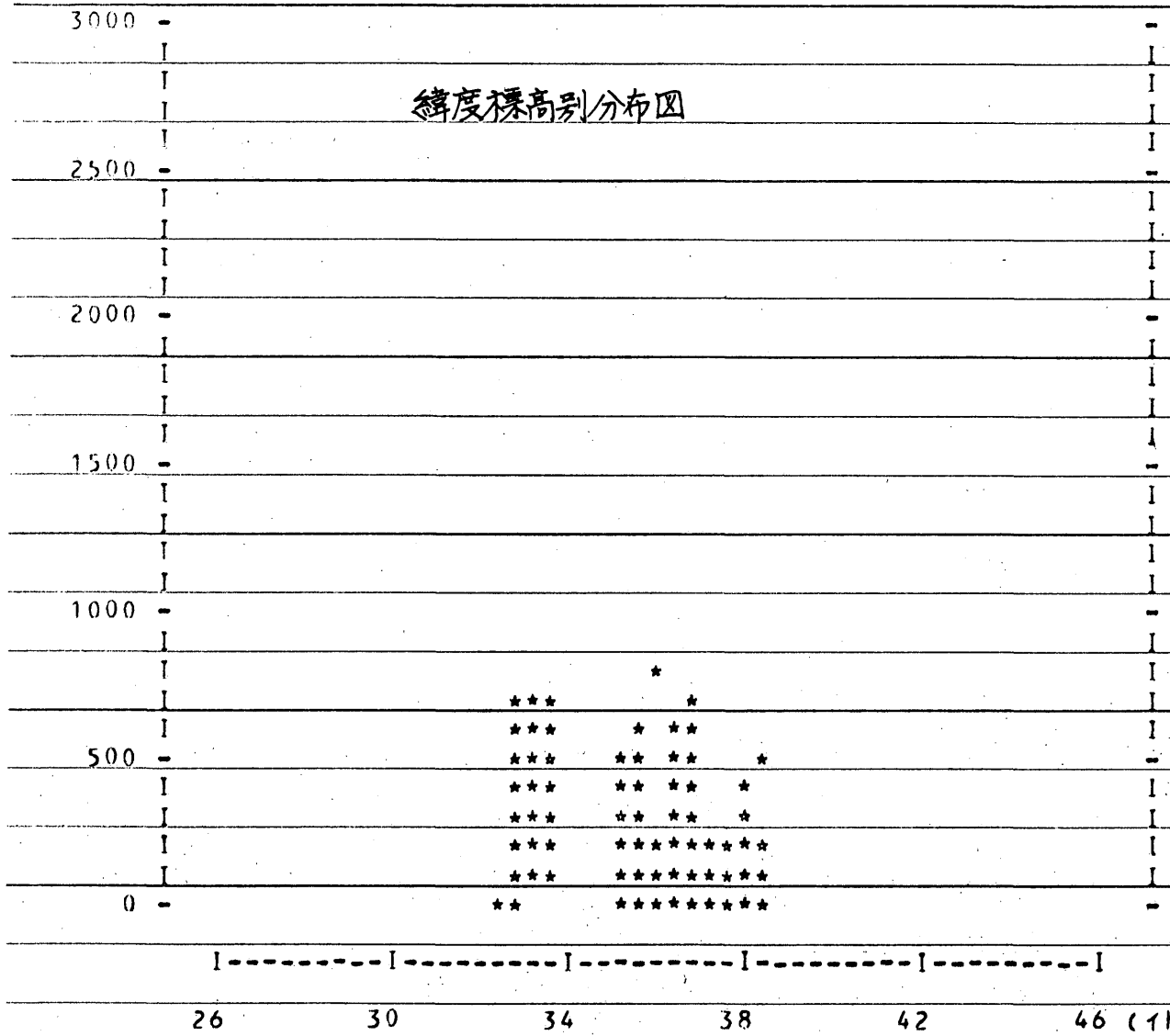
*71001 ヤマツツジ-アカマツ群集



コード	群落名	メッシュ数	出現県
71001A	ヤマツツジ-アカマツ群集	570	新潟, 富山, 石川, 岐阜, 滋賀
71001B	アカマツ-ヤマツツジ群集	266	茨城, 栃木, 埼玉, 長崎, 大分
	計	836	

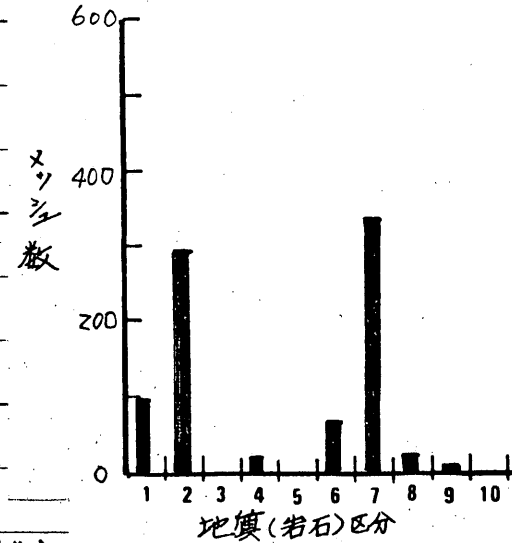


緯度標高別分布図



土壌区分別頻度図

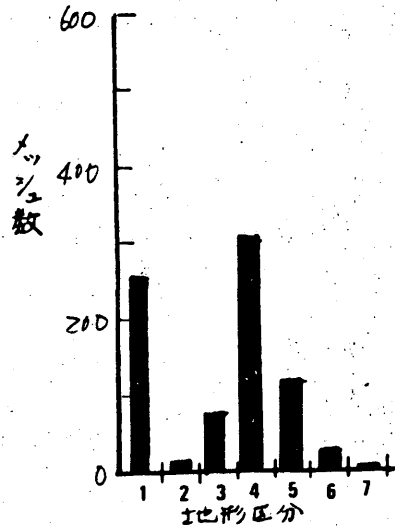
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



地質(岩石)区分別頻度図

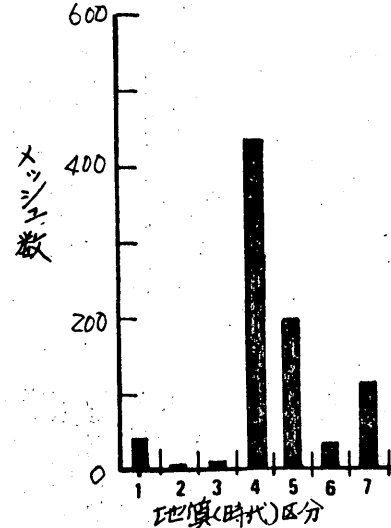
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

26 30 34 38 42 46 (1°)



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

モチツツジ-アカマツ群集 *Phododendro-Pinetum kinkianum.*

<相観> 常緑針葉樹の高木林, 亜高木林 3~4層構造

<生育地> 西日本の丘陵, 山地の比較的乾燥した酸性土壌などに生育している。

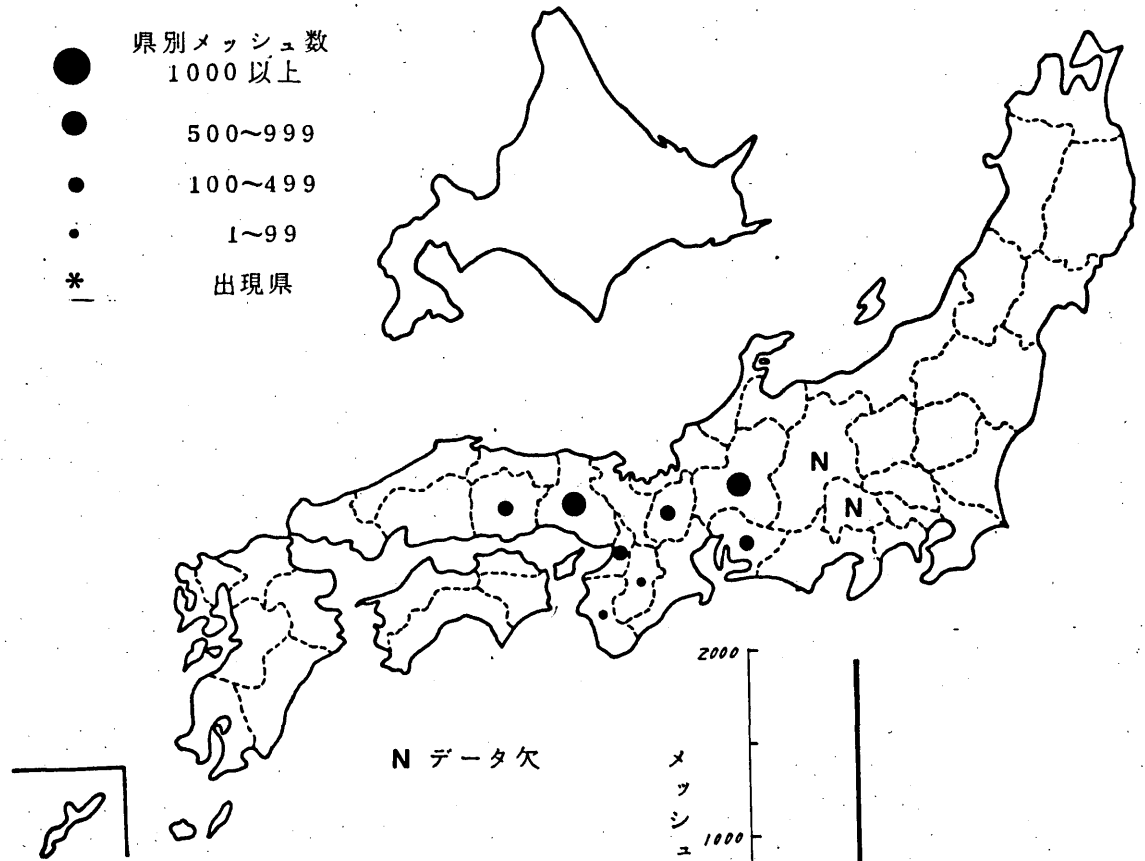
<種組成> 高木層にはアカマツが優占するが時にコナラ, クリ, ツガなどの混生することもある。亜高木層, 低木層にはネジキ, ナツハゼ, リョウブ, アセビなど乾性立地を指標する種や, ヒサカキ, ヤマモモ, ネズミモチ, ヤブツバキなど常緑樹が生育している。また, 低木層にはモチツツジが特徴的に生育している。草本層にはツツジ類やネザサ, ヤブコウジなどがみられ, また, コシダやウラボシが顕著な林分もある。

<群落の特徴> モチツツジとのむすびつきによって特徴づけられるアカマツ二次林である。低木層にモチツツジが特徴的に生育することを除けば, 他のアカマツ二次林と組成的な違いは認められず, またアカマツ植林との区別も明瞭でない。林床にハナゴケやトゲシバリなどの地衣類が生育している林分もみられるがアカマツ矮生林となっている場合が多い。このような矮生林は特に瀬戸内海沿岸地域でよくみられる。

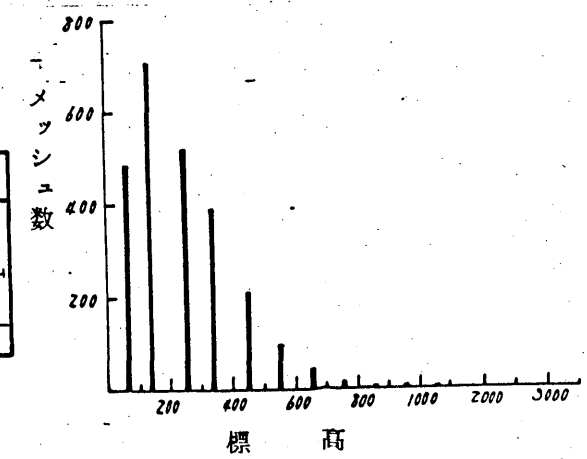
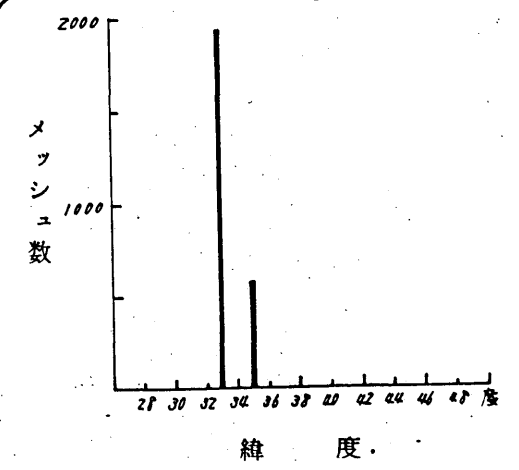
<分布> 中部, 近畿, 中国地方から報告されている。

<その他> 鈴木(1966)では, ヤブツツジ-アカマツ群集の東のアカマツ林に対し, 西のアカマツ林とされており, 近畿, 瀬戸内海岸の花崗岩地帯のアカマツ林とされている。

*71003 モチツツジ-アカマツ群集

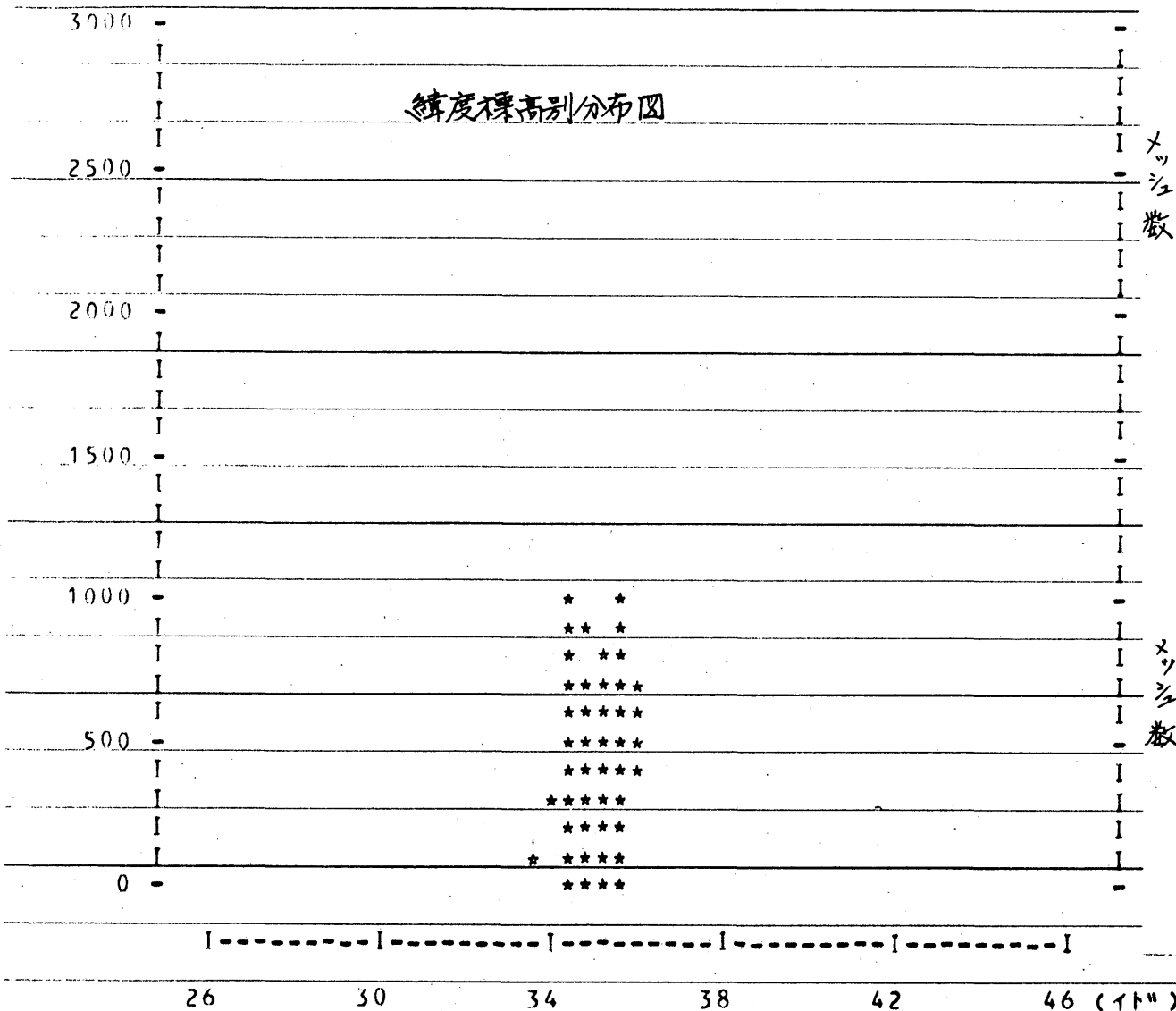


N データ欠

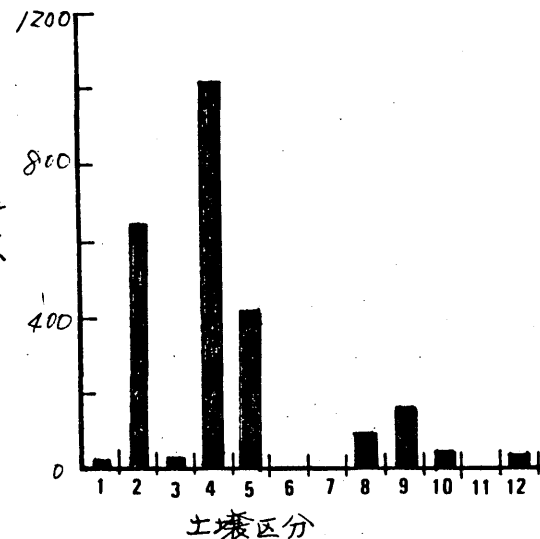


コード	群落名	メッシュ数	出現県
71003	モチツツジ アカマツ群集	2538	岐阜, 愛知, 滋賀 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山, 岡山.
	計	2538	

緯度標高別分布図

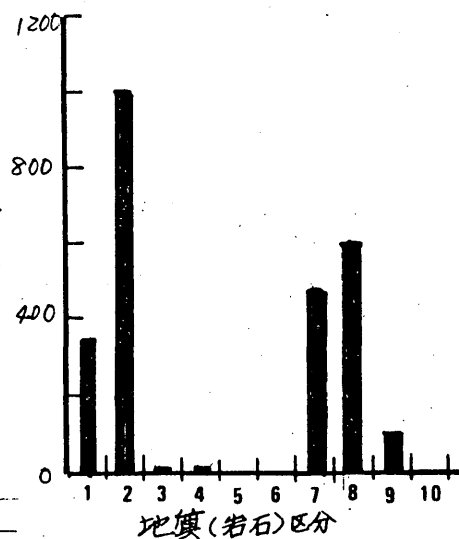


土壌区分別頻度図



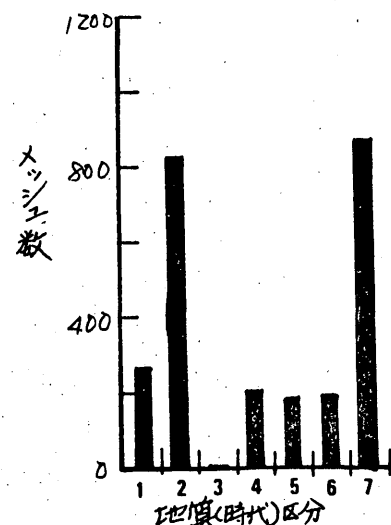
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



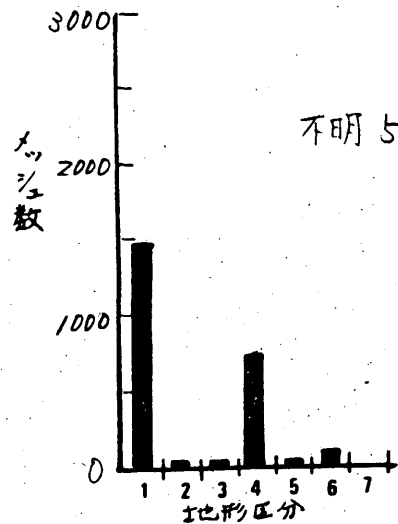
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州

コバノミツバツツジ-アカマツ群集 *Phododendro reticulati-Pinetum densiflorae*

<相 観> 常緑針葉樹林の高木林, 亜高木林 3~4層構造

<生育地> 西日本(特に中国, 四国地方)の丘陵や山地の乾性地に生育している。

<種組成> 高木層にはアカマツが優占している。亜高木層は欠くことも多いがアカマツ, ヤマウルシ, ヤマザクラなどによって構成されることもある。低木層にはコバノミツバツツジが特徴的に出現し, ヒサカキ, コナラ, アカダ, アセビ, ソヨゴなどが生育している。草本層の出現種数は一般に少ないが, 沿岸近くではコシダが, よくみられ, 内陸部ではネササが生育することが多い。

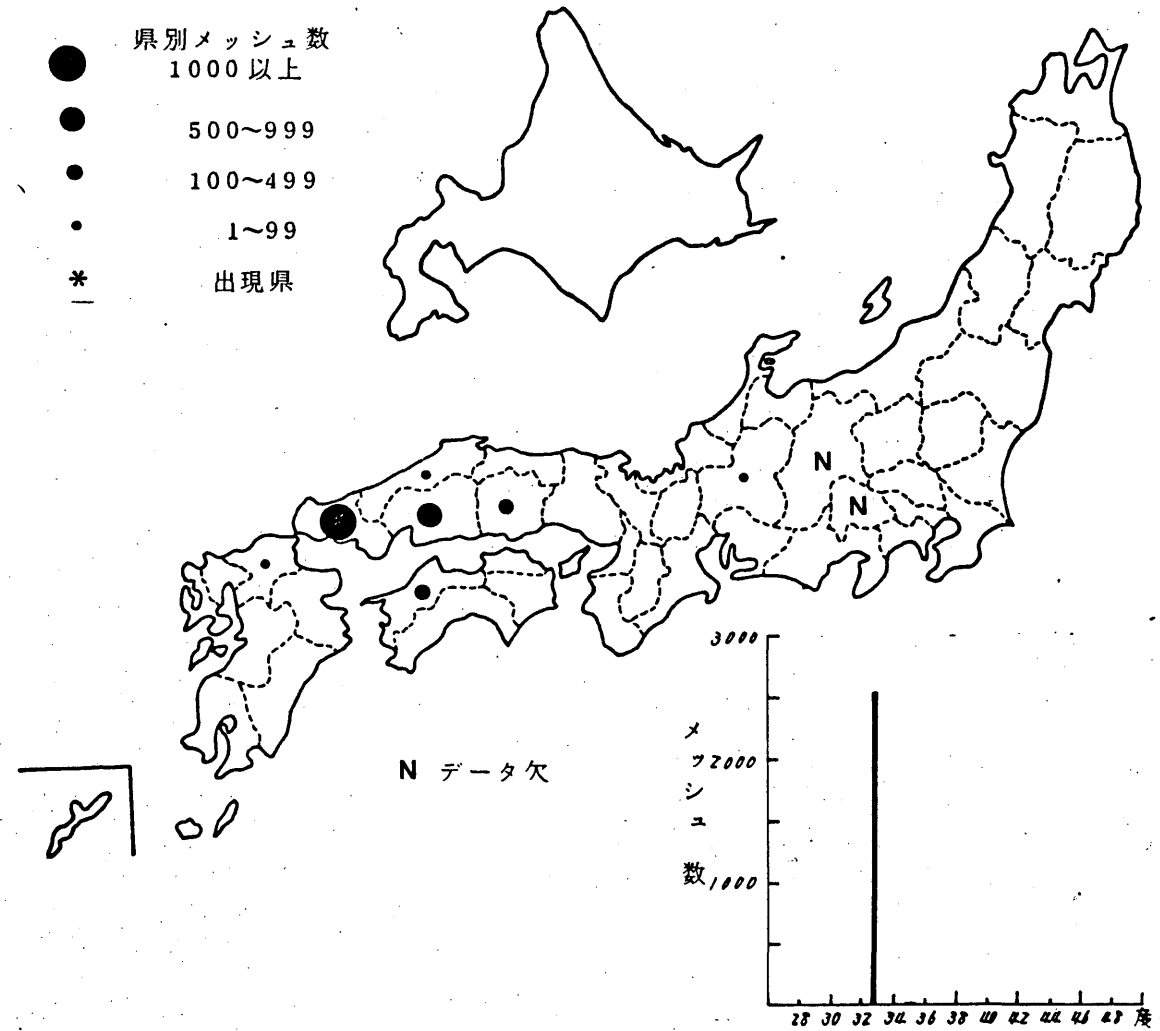
<群落の特徴> コバノミツバツツジとのむすびつきによって特徴づけられるアカマツの二次林で, 組成的には他のアカマツ二次林やアカマツ植林と極めて類似している。

<分 布> 中部, 中国, 四国, 九州などの地方から報告されている。豊原(1973)によれば, 西日本内帯とくに中国および四国地方西部のアカマツ林とされている。

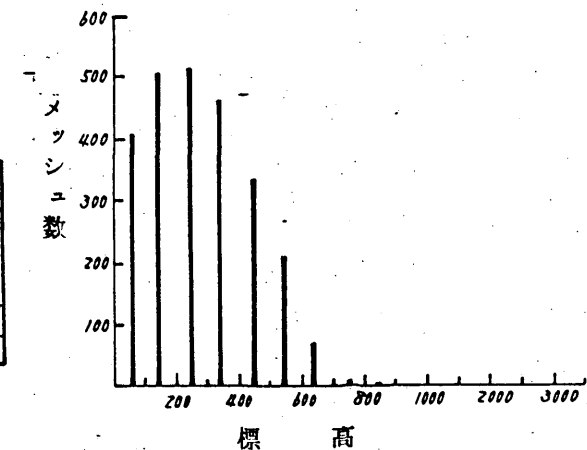
<その他> 鈴木兵一・豊原(1971)によって認められる群集である。

*71004 コバノミツバツツジ-アカマツ群集

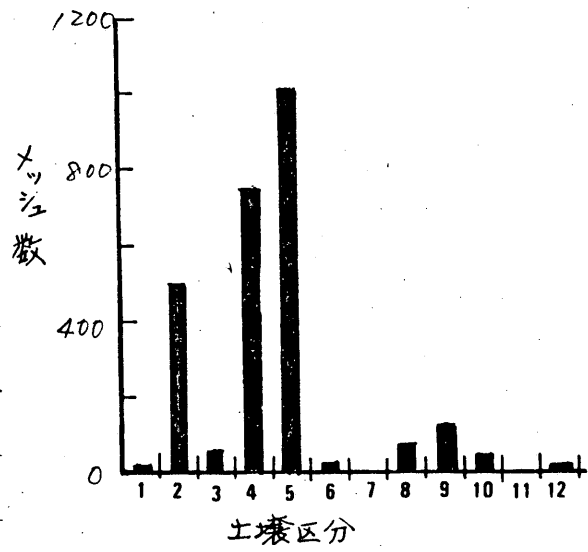
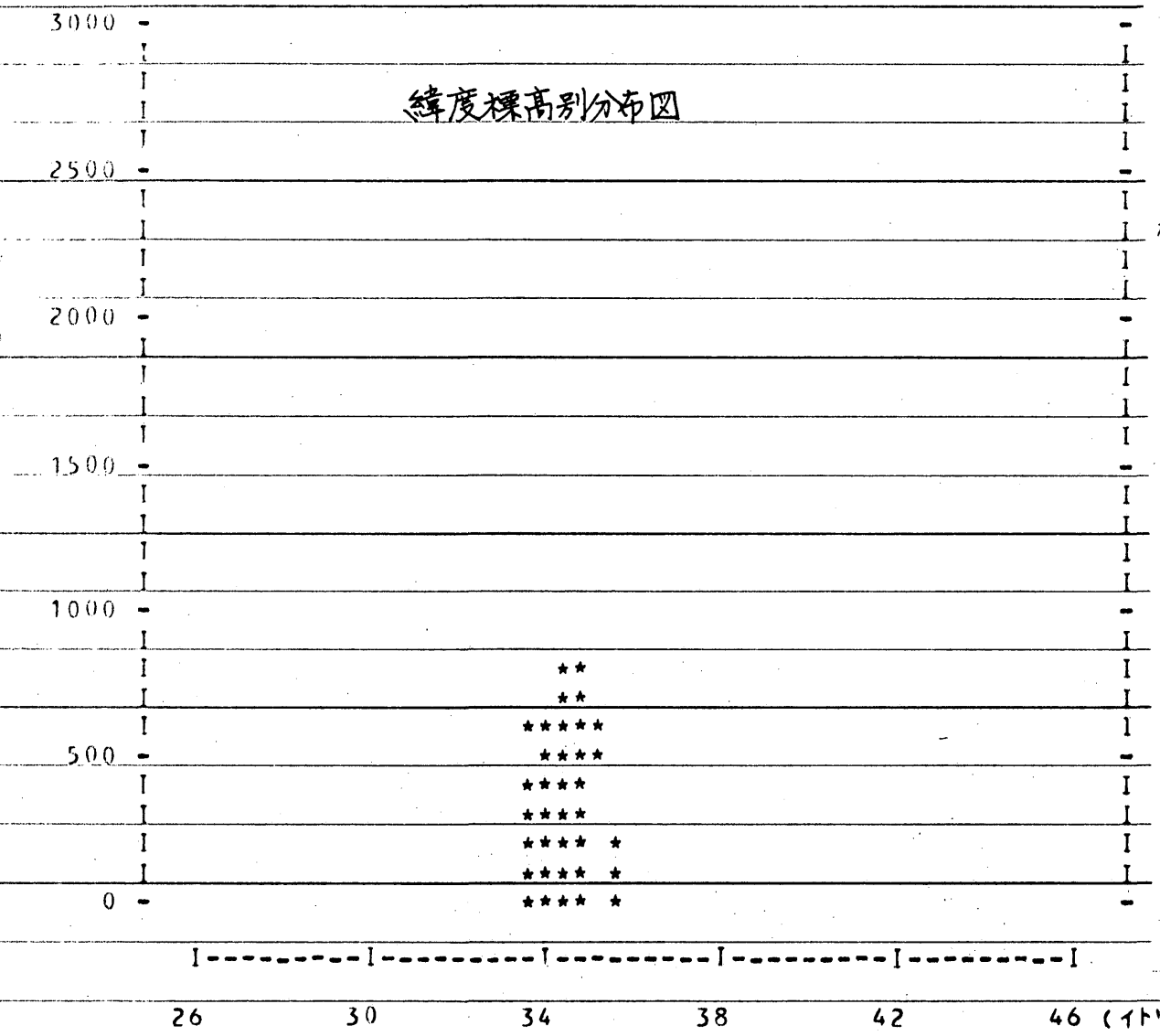
- 県別メッシュ数 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- * 出現県



コード	群落名	メッシュ数	出現県
71004A	コバノミツバツツジ アカマツ群集	2524	岐阜, 島根, 岡山, 広島 山口, 愛媛, 福岡
71004B	コバノミツバツツジ群集	-	
	計	2524	



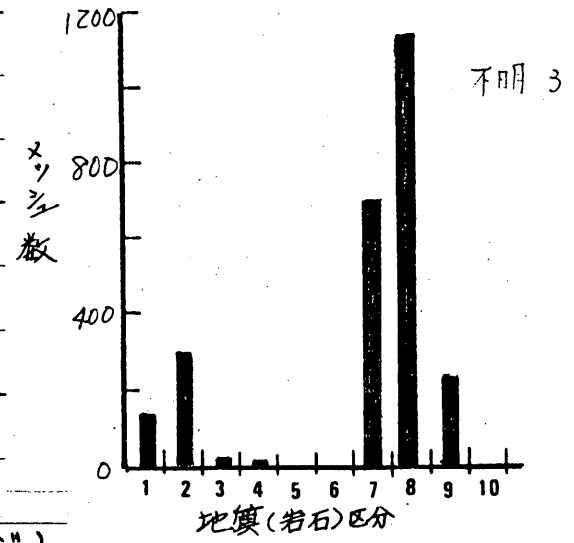
緯度標高別分布図



土壌区分別頻度図

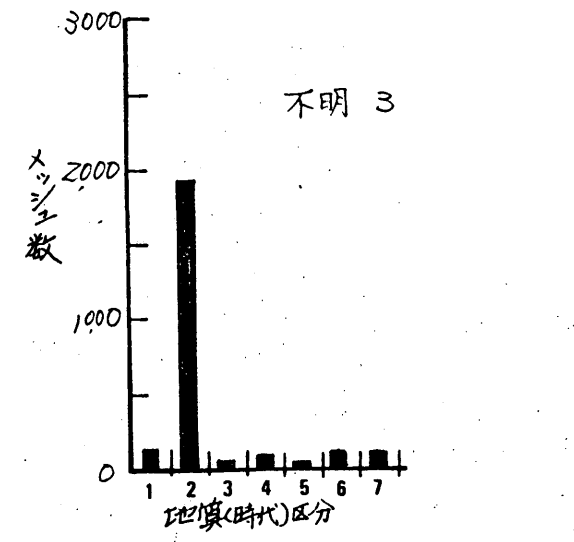
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ポドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



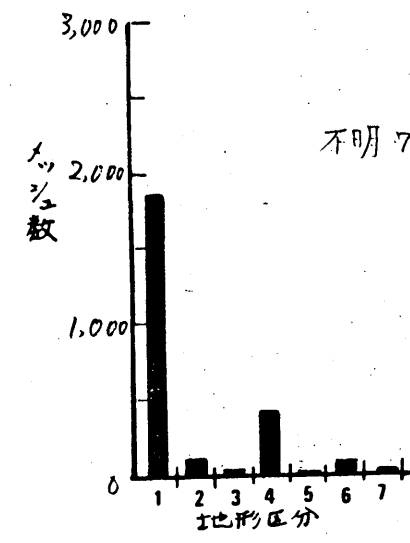
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲

クロマツ群落 Pinus thunbergii Community

<相 観> 常緑針葉樹の高木林

<生育地> 暖地の海岸の断崖上, 岩角地, 砂丘などに生育している。

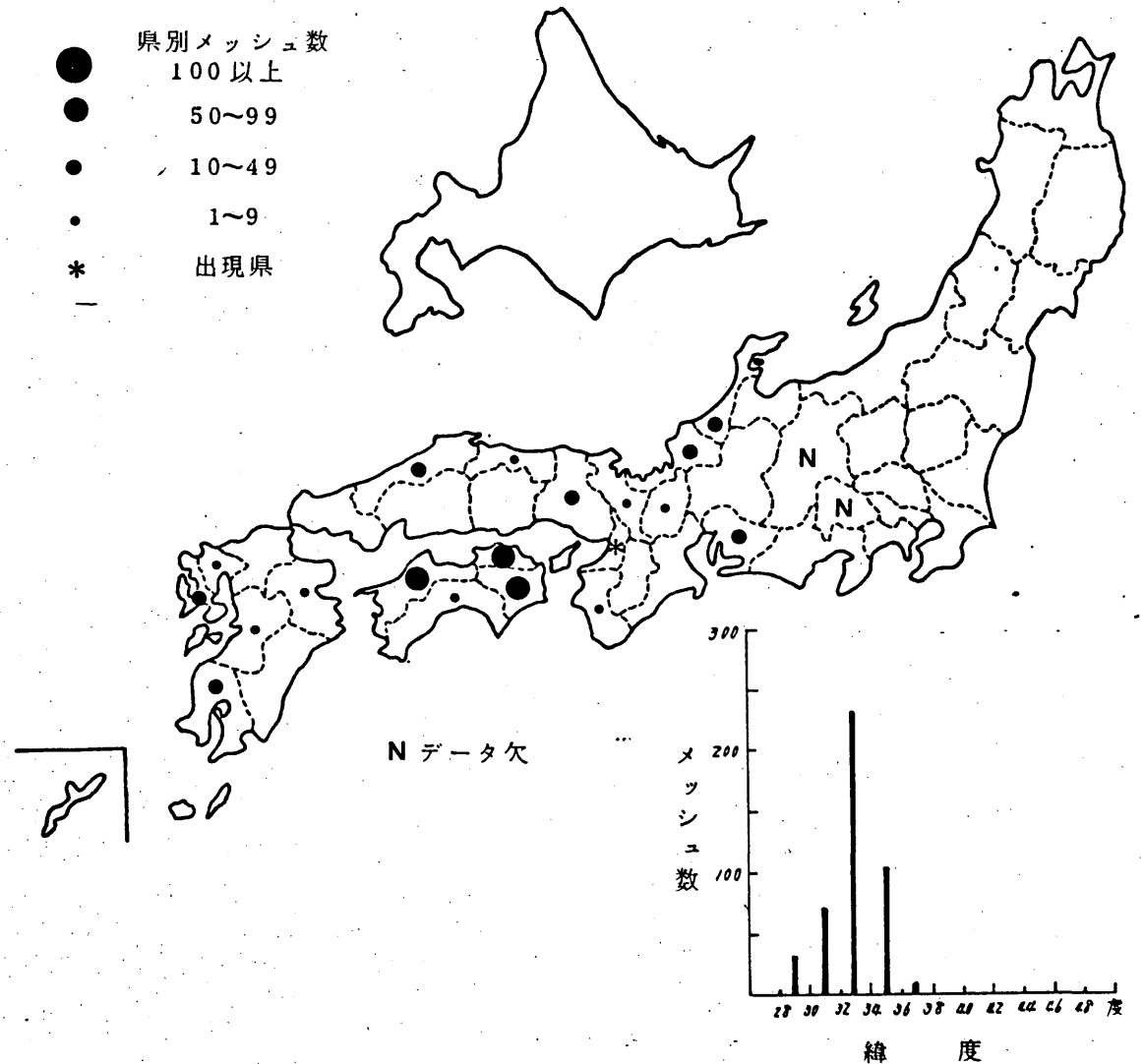
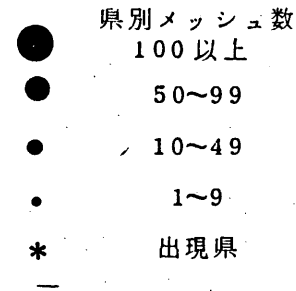
<種組成> 高木層にはクロマツが優占し, 亜高木層を欠き, 低木層には, トハシ, マサキ, ネズミモチ, マバグミなどに海岸風衝低木林と共通の種類が生育している。草本層は貧弱なことが多く, オニヤブソテツ, ツツブキ, ススキなどの他, ハマアオスゲ, ハマスゲ, ハマナデシコ, ケカモハシなど海岸に特有の植物が生育している。

<群落の特徴> 海岸の乾性, 貧養地における土地の極相林と考えられる。

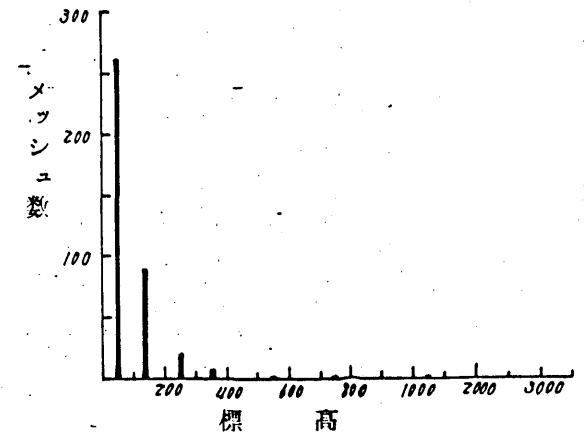
<分 布> 近畿, 中国, 四国, 九州などから報告されている。

<その他> 海岸のクロマツ林については古くに植林されたものも多く, 組成的にもほとんど差がないため, 自然植生であるか, 代償植生であるかの判別が困難なものが多い。

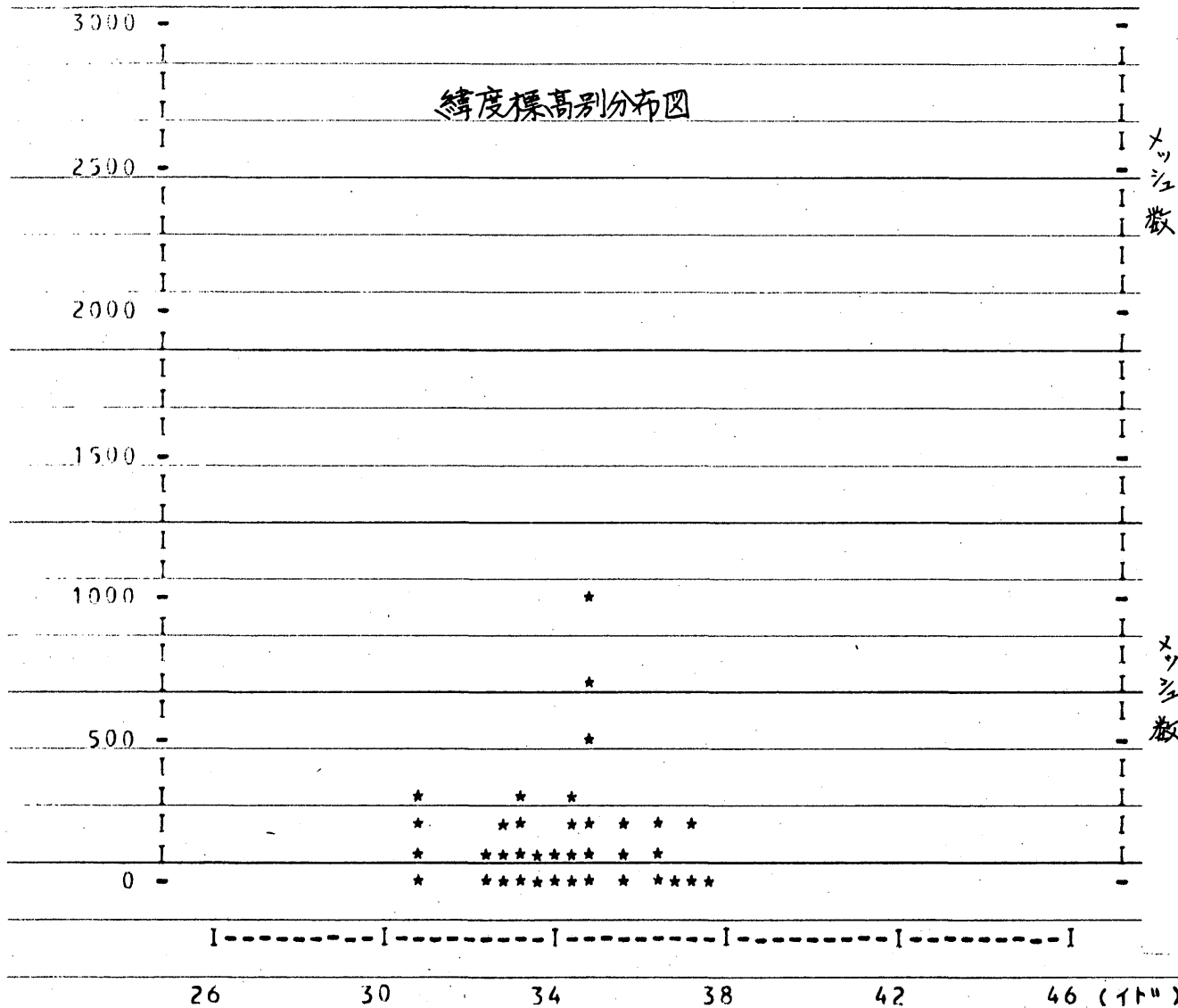
*71100 クロマツ群落



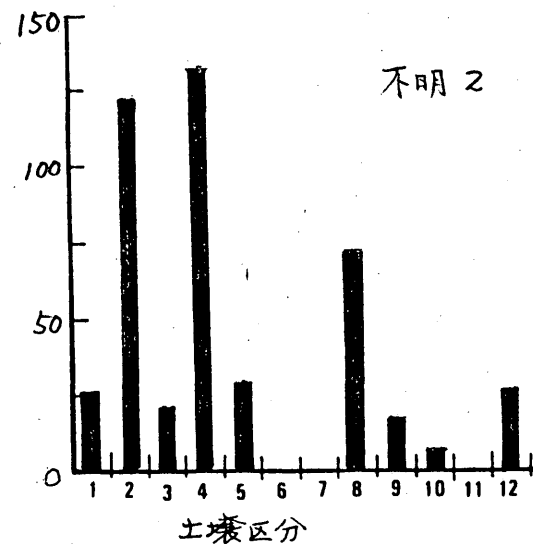
コード	群落名	メッシュ数	出現県
71100	クロマツ群落	454	石川, 福井, 愛知, 滋賀, 大阪, 兵庫, 和歌山, 鳥取, 徳島, 香川, 愛媛, 島根, 長崎, 大分, 高知, 京都, 熊本, 鹿児島, 佐賀
	計	454	



緯度標高別分布図

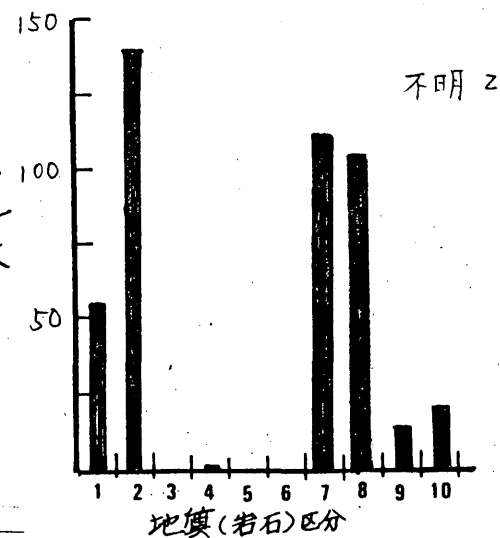


土壌区分別頻度図



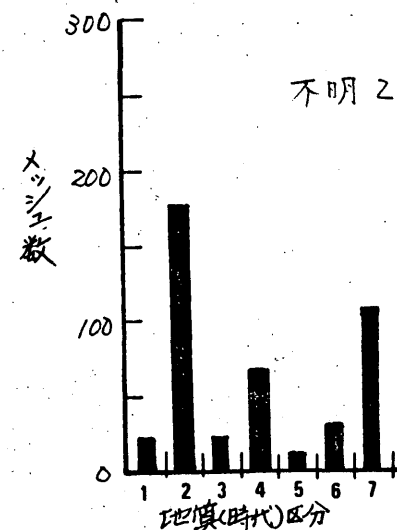
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



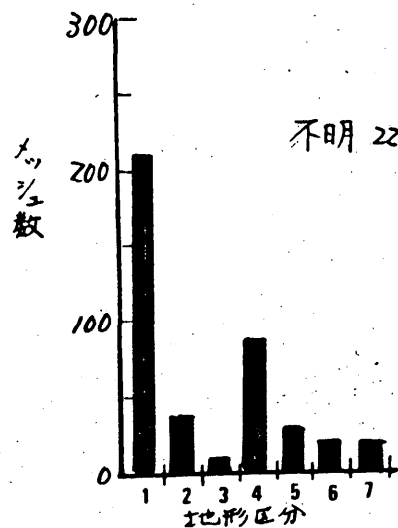
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲

〈相観〉 高茎草原

〈生育地〉 海岸の塩沼湿地、河口付近、河川の下流、中流域、池沼の周縁、湿原などの低地から山地まで、広い地域の湿性立地に生育している。一般に、ヨシの優占群落の立地は泥質または砂泥質で、常に停滞水があるようなところである。ヨシは生育適応範囲の広い植物で、強酸性の栄養湖から、塩沼地にもみられ、耕作放棄水田や、海岸埋立地の湿性地にも群落を形成する。

〈種組成〉 ヨシクラスには、ヨシの優占する群落。他、カサスゲ、アゼスゲなどの大形スゲ群落、ガマ、ヒメガマ、マコモ、サンカクイ、シククイなどの群落も含まれている。一般に優占種は1〜2種で、上層を覆い光をささげることから、下層にはあまり植物が生育せず、群落構成は単純なことが多い。北海道や東北地方で多くみられる湿原では、ヨシや大形スゲの優占群落にミスゴケ類、ミスドクサ、ミツガシワ、ミスバシヨウなどが生育している。池沼の周縁や河川の下流域など泥質地で水の流れるところや、なごころには、ヨシ、ガマ、ヒメガマ、マコモ、フトイなどの群落のみみられる。河川の中流域、砂泥質地には、ヨシにオギ、チガヤ、ススキなどの混生する群落のみみられる。河口付近や塩沼地ではヨシ、サンカクイ、シオクアなどの生育する群落のみみられる。

〈群落の特徴〉 挺水植物による構成される低層湿原の形態をとるものが多い。

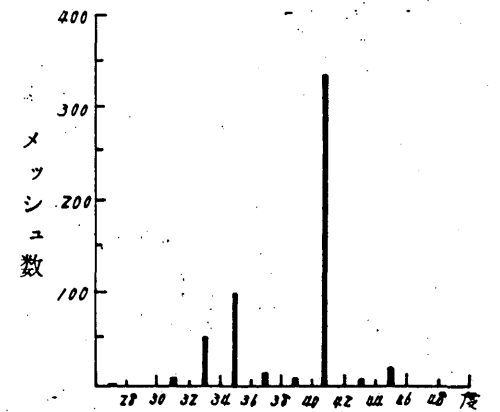
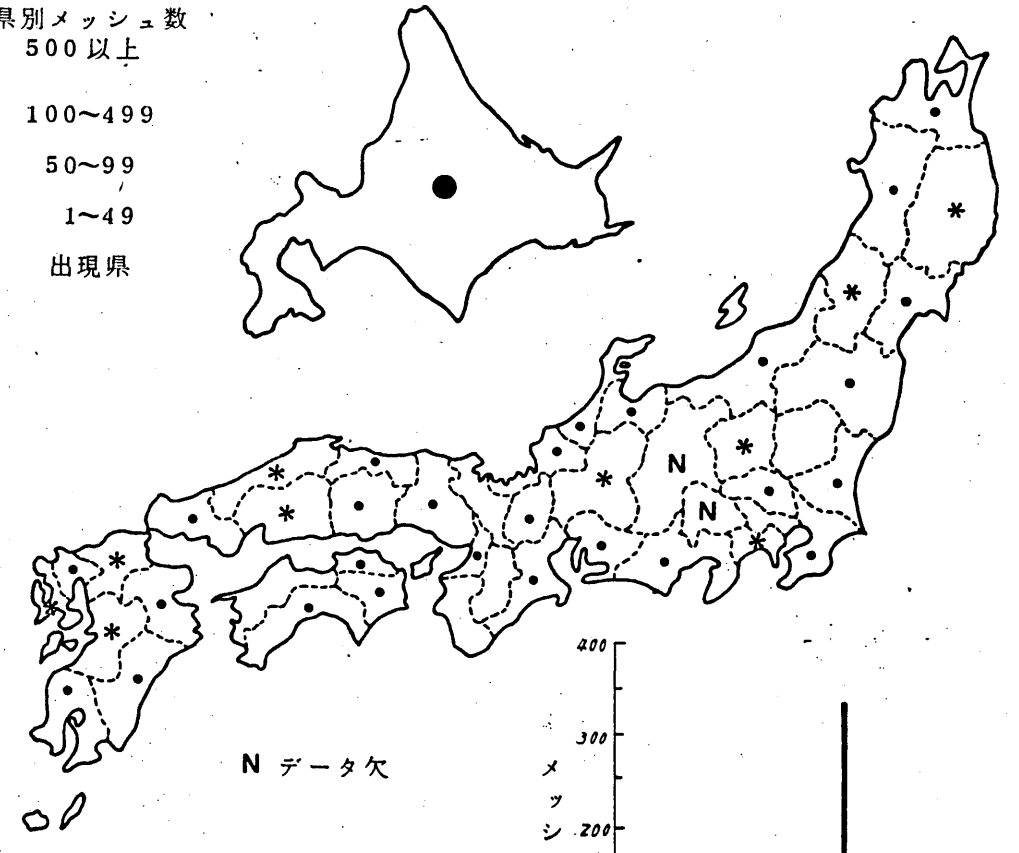
〈分布〉 北海道から沖縄まで広く分布している。

〈その他〉 自然植生としてのヨシクラス、群落は、小規模のもの各地にみられる。河口付近や河川流域などの大規模な群落では人為の影響を受け、破壊されているものも多い。

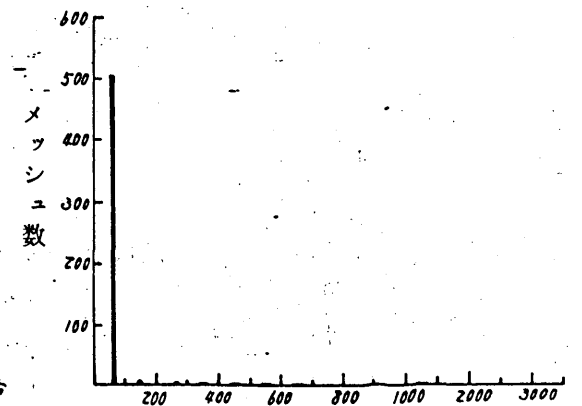
Ⅶ. 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生(各クラス 或共通)

*80300 ヨシクラス

- 500以上
- 100~499
- 50~99
- 1~49
- * 出現県

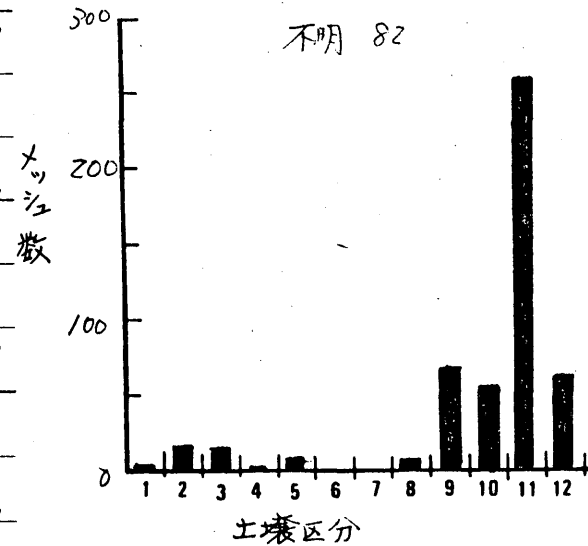
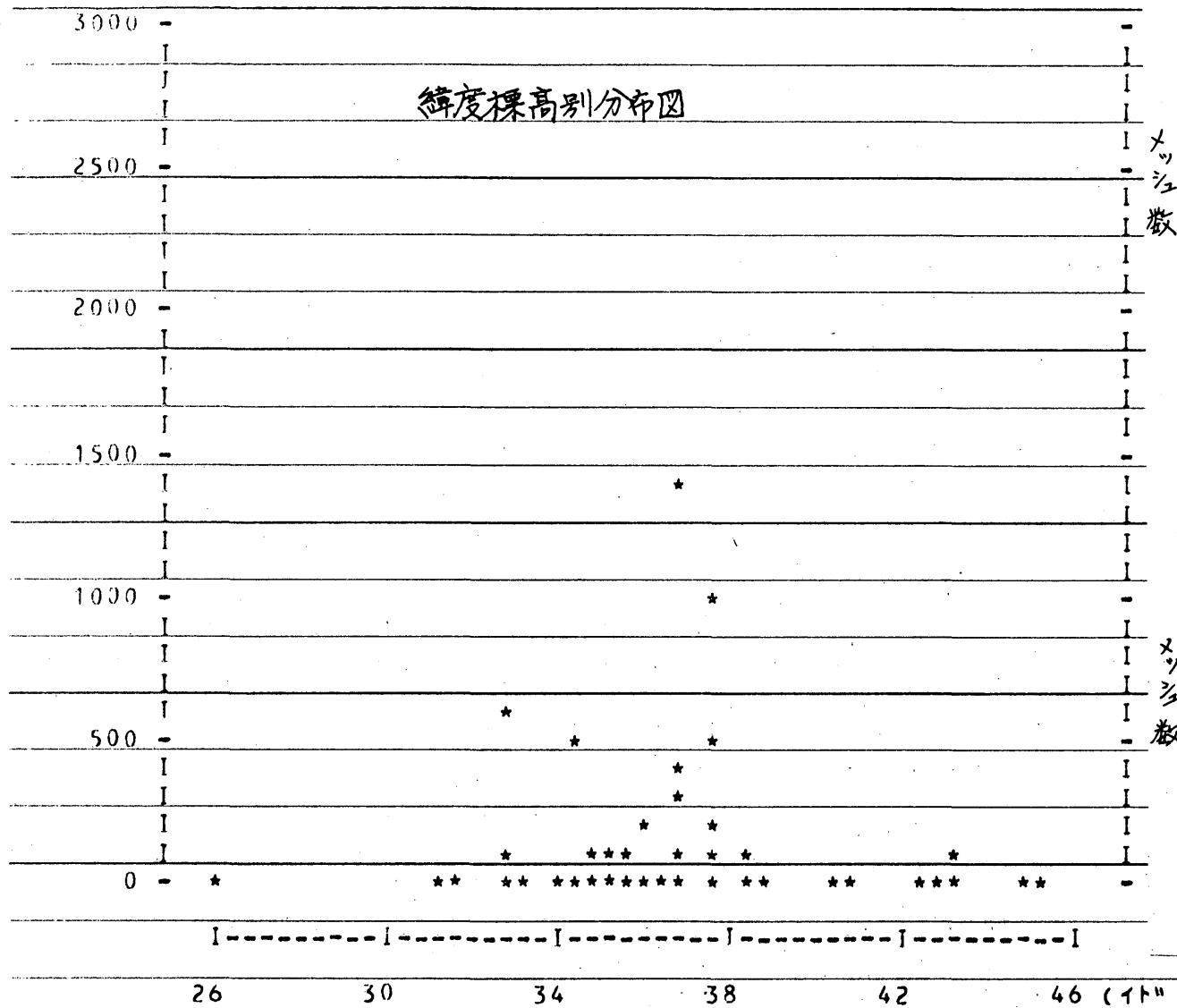


コード	群落名	メッシュ数	出現県
80300A	ヨシクラス	565	北海道、青森、岩手、宮城、秋田、福島、茨城、群馬、埼玉、千葉、神奈川、新潟、富山、石川、福井、岐阜、静岡、愛知、滋賀、大阪、兵庫、鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、高知、福岡、佐賀、長崎、大分、宮崎、鹿児島、沖縄
80300B	ヨシ群落	3	三重、熊本、鹿児島
80300C	低層湿原	0	山形
	計	568	



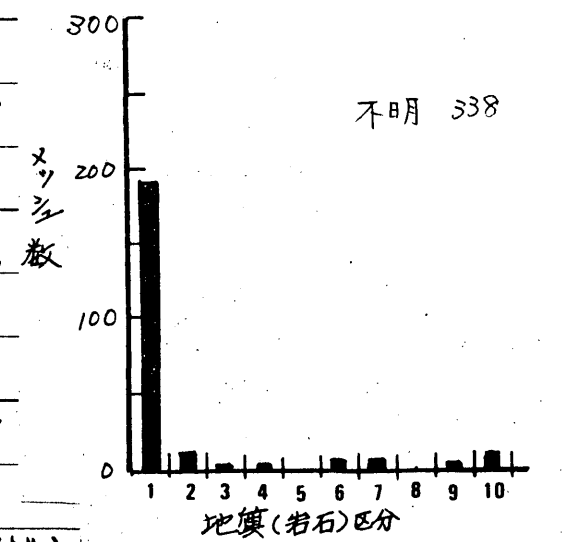
* 1県で2群落以上出現する場合、メッシュ数のもとより群落

緯度標高別分布図



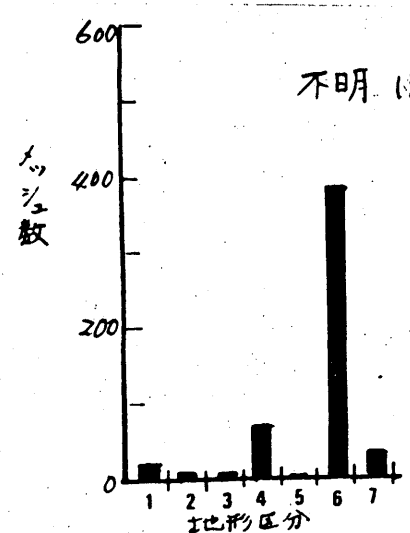
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ポドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



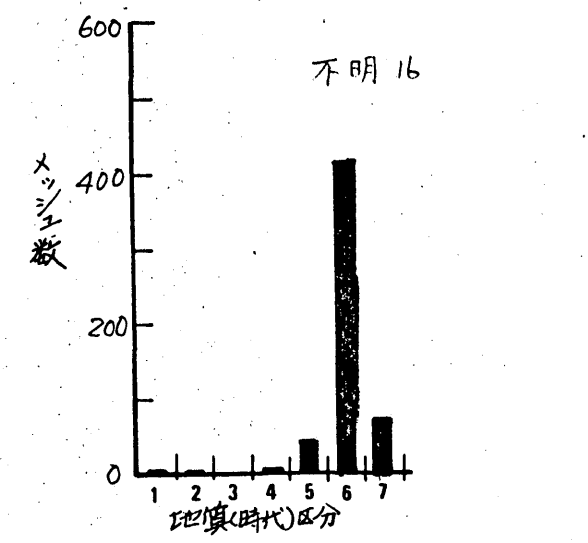
地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

常緑針葉樹植林

Evergreen conifer plantation

〈相観〉常緑針葉樹の高木林、亜高木林、低木林。

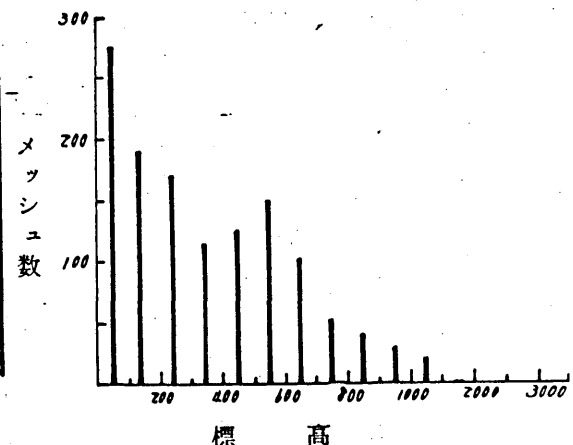
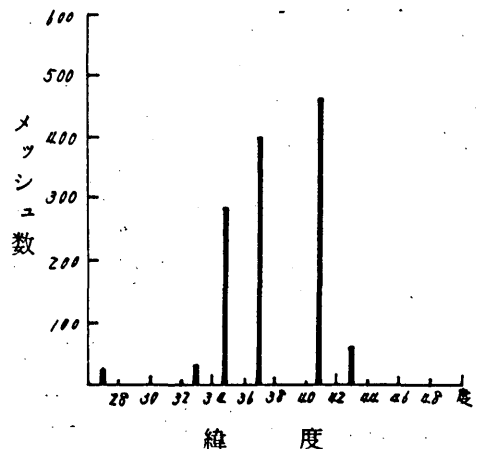
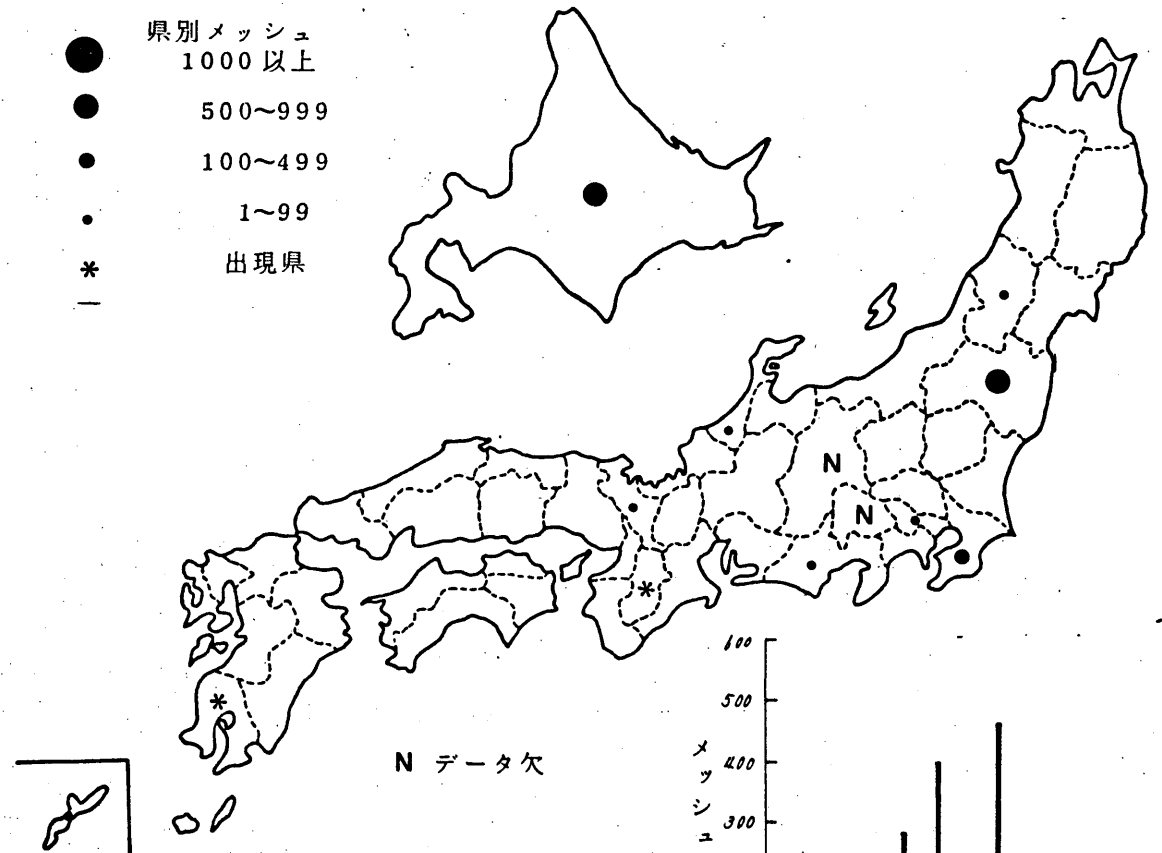
〈生育地〉一般的には杉林伐採地にアカマツ、クロマツ、スギ、ヒノキ、サワラなどの常緑針葉樹が混植または小面積で単植されたところである。アカマツ植林、クロマツ植林、スギ・ヒノキ・サワラ植林として別箇に表示することが困難な場合に用いられている。それぞれの樹種の立地について別項詳述する。地域的にはウラジロモミ、ヒノキアスナロ、コウヤマキ、リュウキュウマツの植林もみられる。ウラジロモミは東日本側のブナフラス域に、ヒノキアスナロは日本海側のブナフラス域を中心に植林されている。コウヤマキはヤブツバキクラス域上部にわずかにみられ、リュウキュウマツはヤブツバキクラス域の奄美諸島、沖縄、小笠原など低緯度地方に広く植林されている。

〈種組成〉アカマツとクロマツ、スギとヒノキ、ヒノキとサワラは混植されることがある。これらの植林のうち下伐りの行われていないよく発達した林分では林床に、ヤブツバキクラス域では常緑植物が、ブナフラス域では落葉植物が多数生育している。また立地を反映してスギ・ヒノキ植林では弱湿性～適潤立地生の種群が、ヒノキ・サワラ植林、アカマツ・クロマツ植林では乾性立地性の種群が特徴的にみられる。ウラジロモミ植林は、富岳山南斜面では低木疎林状の植林樹種の下層にススキをはじめとするススキ群団の種が生育し、周辺のウラジロモミ自然林の組成とは大きく異なっている。ヒノキアスナロ植林は、能登半島ではアカマツ、スギの植林の下層に行われている。リュウキュウマツ植林は、植林後短期間に下層に常緑植物が繁茂し、自然林との区別は困難になる。

〈群落の特徴〉常緑針葉樹の植林である。アカマツ、クロマツ、スギ、ヒノキなどの混植または小面積単植林が一般的であるが、ウラジロモミ、ヒノキアスナロ、コウヤマキ、リュウキュウマツなどの植林も地域的にみられる。植林以前に存在していた森林、立地の地物、土壌条件、植林後の経過年数などの差異によって構造、種組成は様々である。

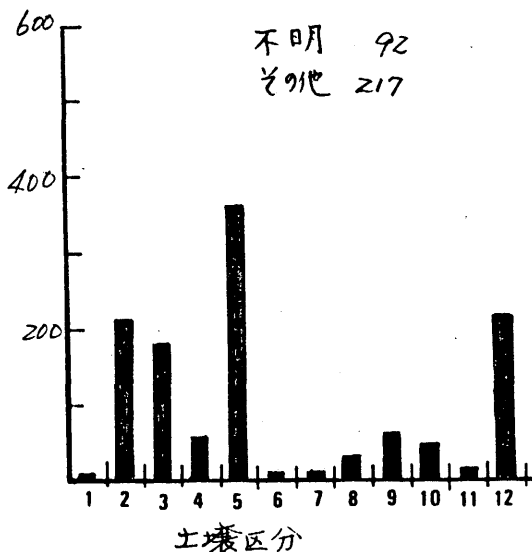
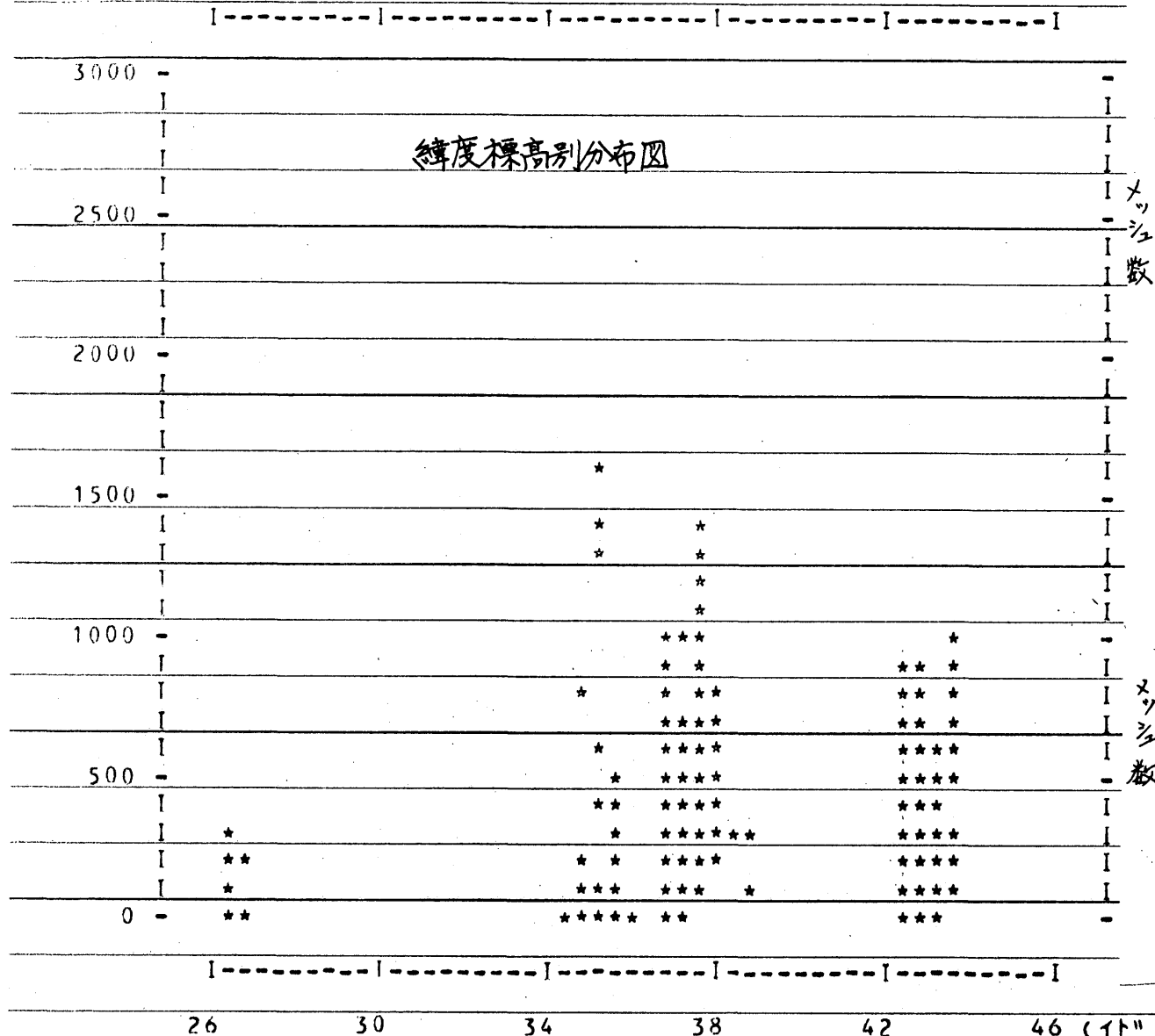
Ⅹ. 植林地、耕作地植生(各クラス域共通)
*90100 常緑針葉樹植林

- 県別メッシュ 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- * 出現県



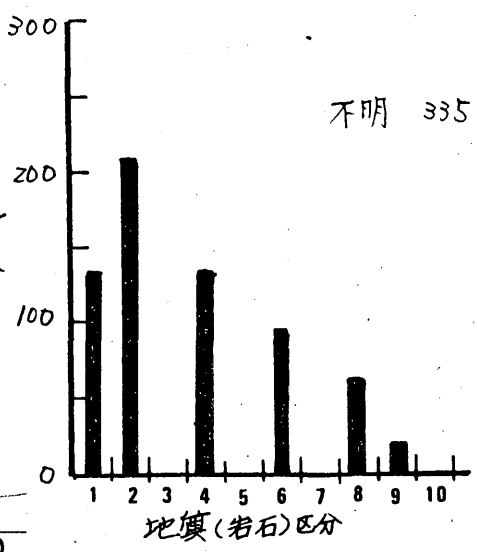
コード	群落名	メッシュ数	出現県
90100A	常緑針葉樹植林	1049	北海道、山形、福島、京都、奈良
90100B	マツ植林	123	千葉
90107C	ウラジロモミ植林	8	静岡
90108D	リュウキュウマツ植林	20	鹿児島、沖縄
90100E	リュウキュウマツ植林	6	東京
90110F	ヒノキアスナロ植林	70	石川
	計	1276	

緯度標高別分布図



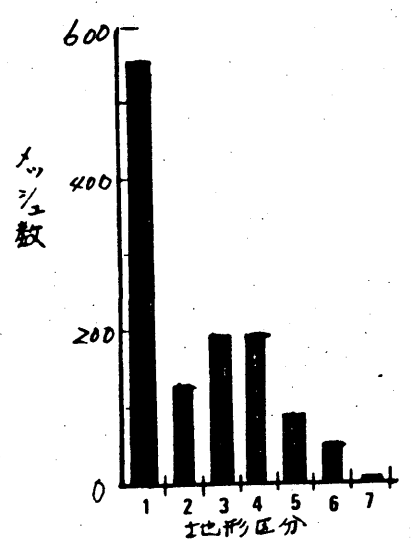
土壌区分別頻度図

- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



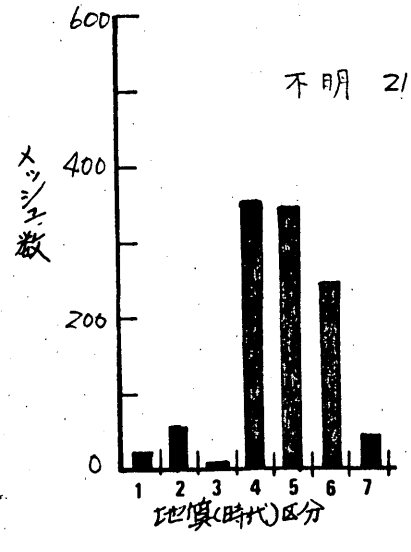
地質(岩石)区分別頻度図

- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰物, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 緩丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂洲



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

アカマツ植林

Pinus densiflora plantation

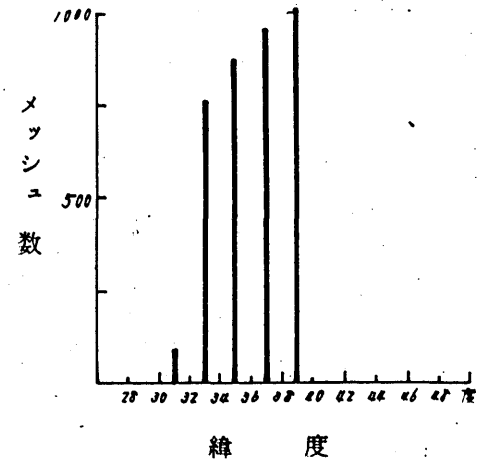
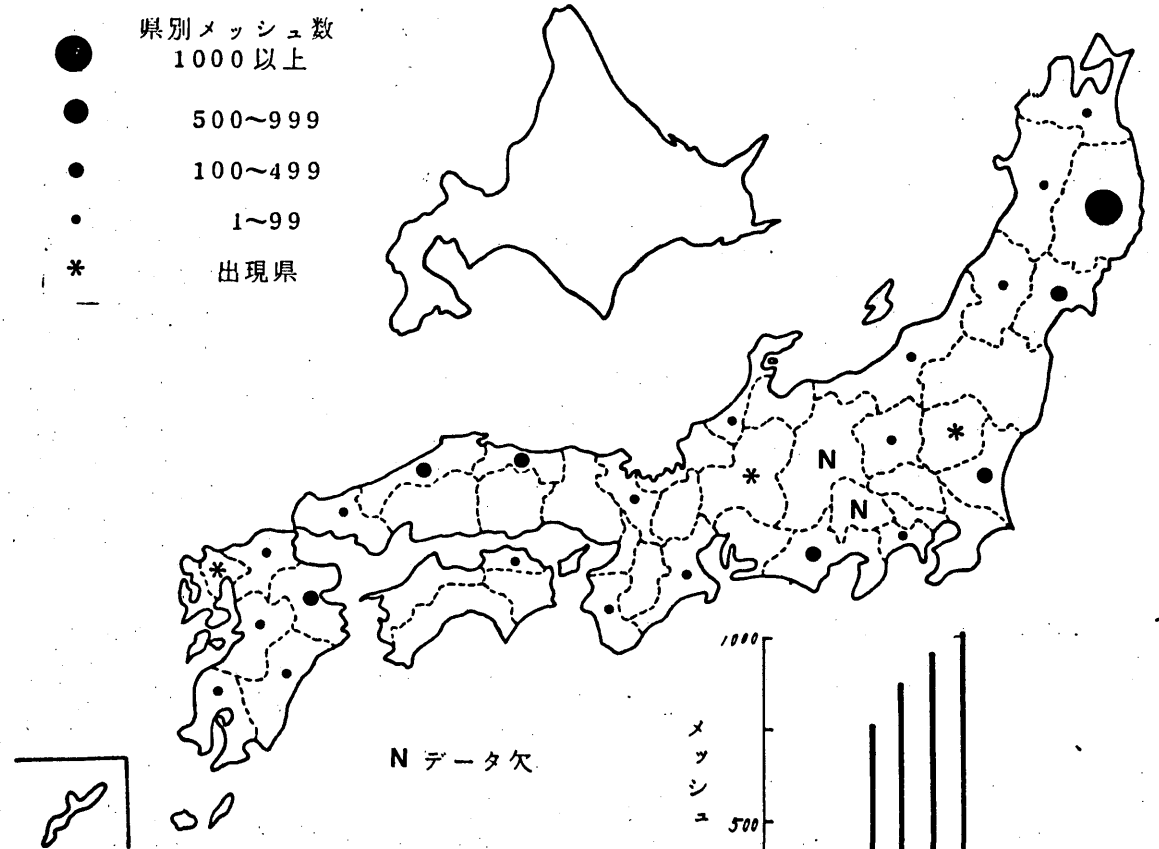
〈相観〉常緑針葉樹の高木林, 巨高木林, 低木林。
 〈生育地〉ヤブツバキクラス域からブナクラス域にかけて, スギやヒノキの植林できない尾根状地に広くみられる。アカマツは自然状態では急傾斜の尾根や露岩地, 扇状地, 河川敷などの極端立地に生育している。アカマツは初期生長の早い陽樹で, 乾燥地によく耐えて生育する。

〈種組成〉アカマツ植林には, 乾性立地を反映して, 林内にはヤマツツジ, シヤシヤン木, ミツバツツジ類などのツツジ科の低木が生育することが多い。また林内が明るいため, コナラ, カマスミなどの二次林に出現する落葉植物も多くみられる。よく発達した植林では, ヤマツツジ-アカマツ群集, モチツツジ-アカマツ群集などのアカマツ自然林と組成的にはきわめて近くなる。

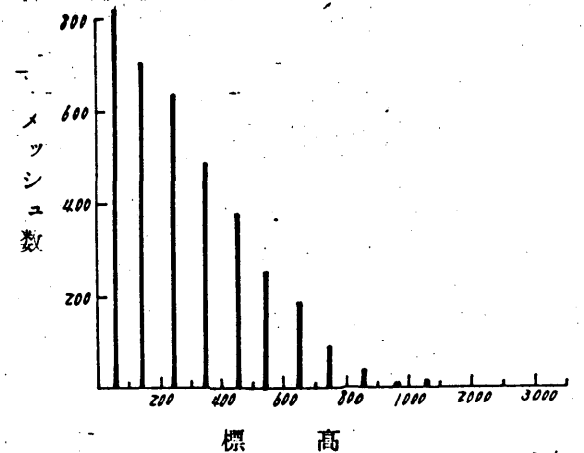
〈群落の特徴〉常緑針葉樹アカマツの植林である。尾根状地などの乾性立地に広くみられる。

*90101 アカマツ植林

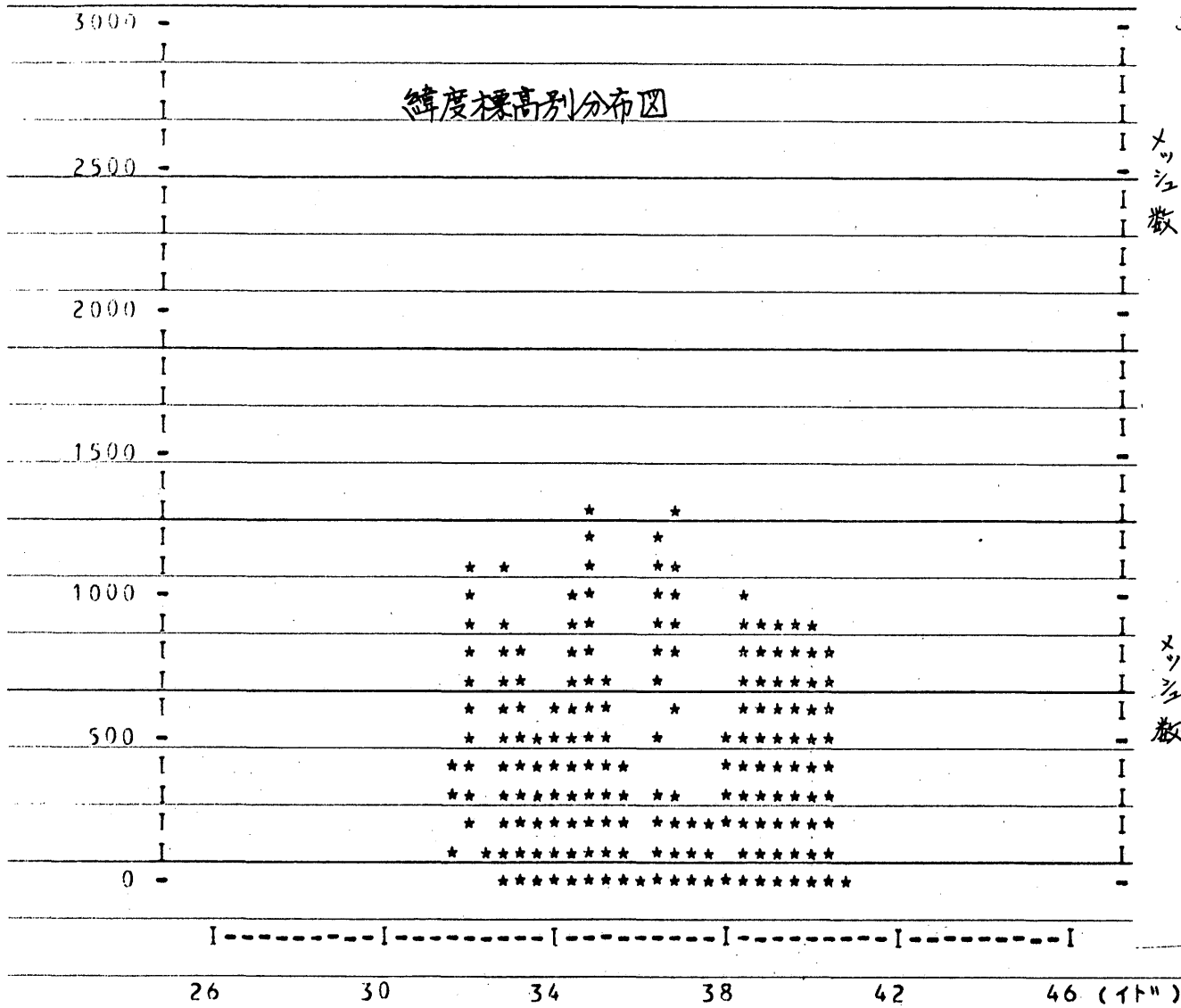
- 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- * 出現県



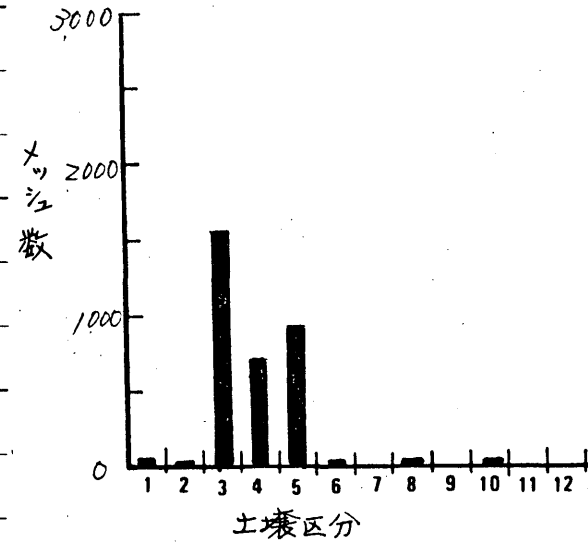
コード	群落名	メッシュ数	出現県
90101A	アカマツ植林	3662	青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 茨城, 栃木, 群馬, 神奈川, 新潟, 石川, 岐阜, 静岡, 三重, 京都, 和歌山, 鳥取, 島根, 山口, 香川, 福岡, 佐賀, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島
90101B	アカマツ植林地	-	
	計	3662	



緯度標高別分布図

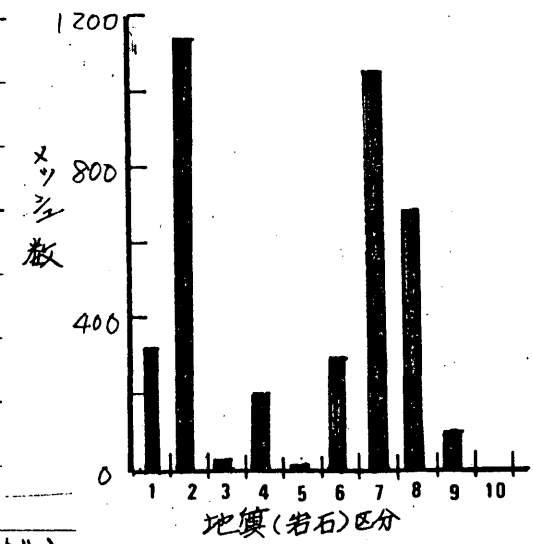


土壌区分別頻度図



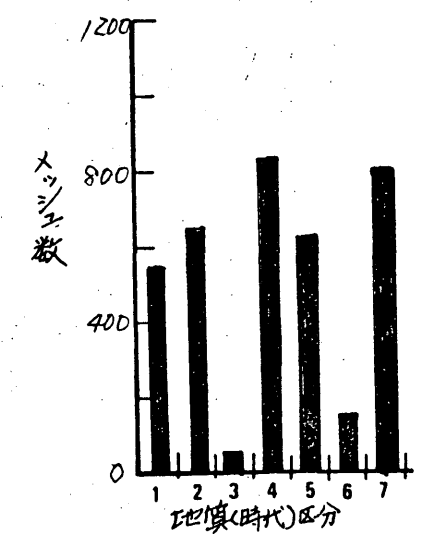
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



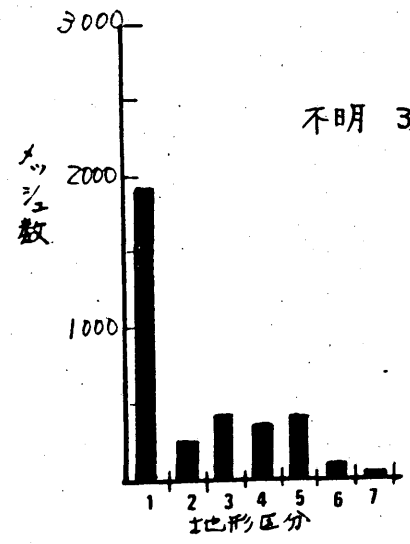
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩、凝灰岩、流紋岩、安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図



- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂洲

不明 3

クロマツ植林

Pinus thunbergii plantation

<相観> 常緑針葉樹の高木林, 亜高木林, 低木林.

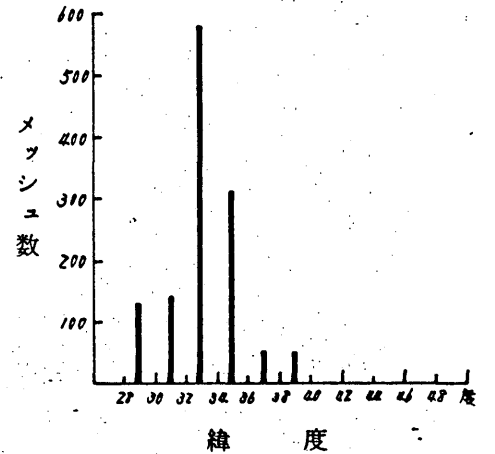
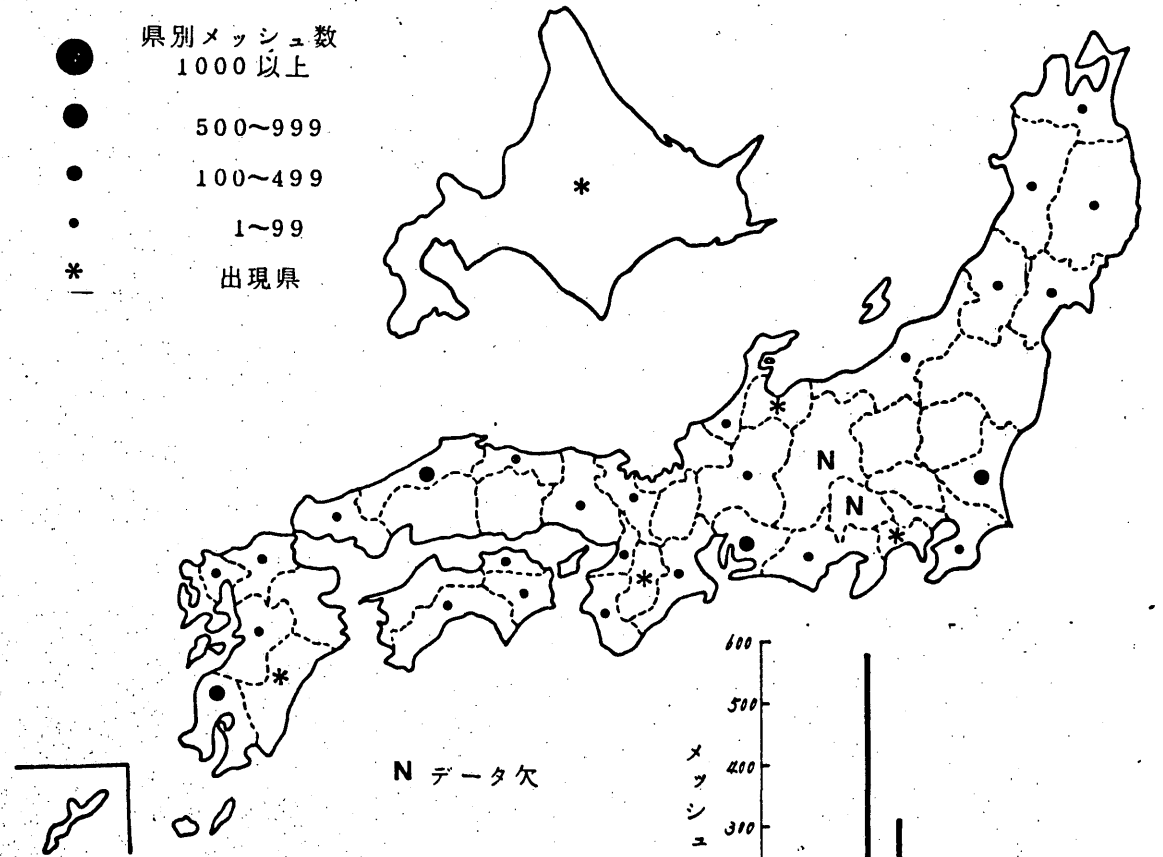
<生育地> ヤブソバキクラス域の特に沿海部に集中している。旧砂丘上や沿海部の丘陵尾根部など, スギ, ヒノキなどの植林が行われない乾性立地にみられ, 防風林, 防砂林として管理されることが多い。クロマツは自然状態では海岸の森林植生の最前部に生育している。

<種組成> 砂丘植生に接したきびしい条件下ではクロマツは疎林状となり, 林床はススキ, 4かやなどの多くの好陽性の多年生草本植物によって占められる。やや内陸のクロマツ植林や, 長年放置されたクロマツ植林では, 林内にマサキ, トベラ, オオバイナなどの低木が多く生育している。組成は立地により様々である。

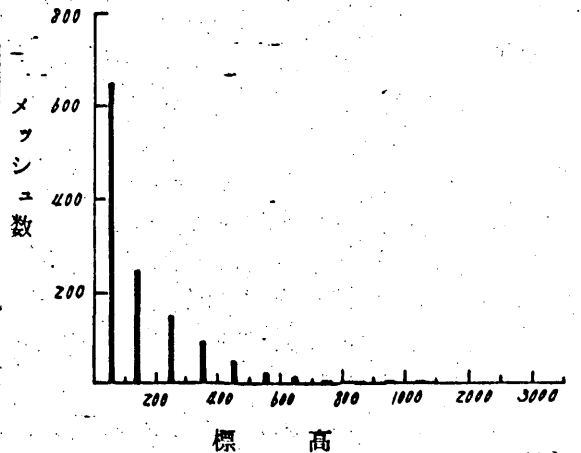
<群落の特徴> 常緑針葉樹クロマツの植林である。ヤブソバキクラス域の沿海部に集中してみられ, 防風, 防砂林として重要である。

*90102 クロマツ植林

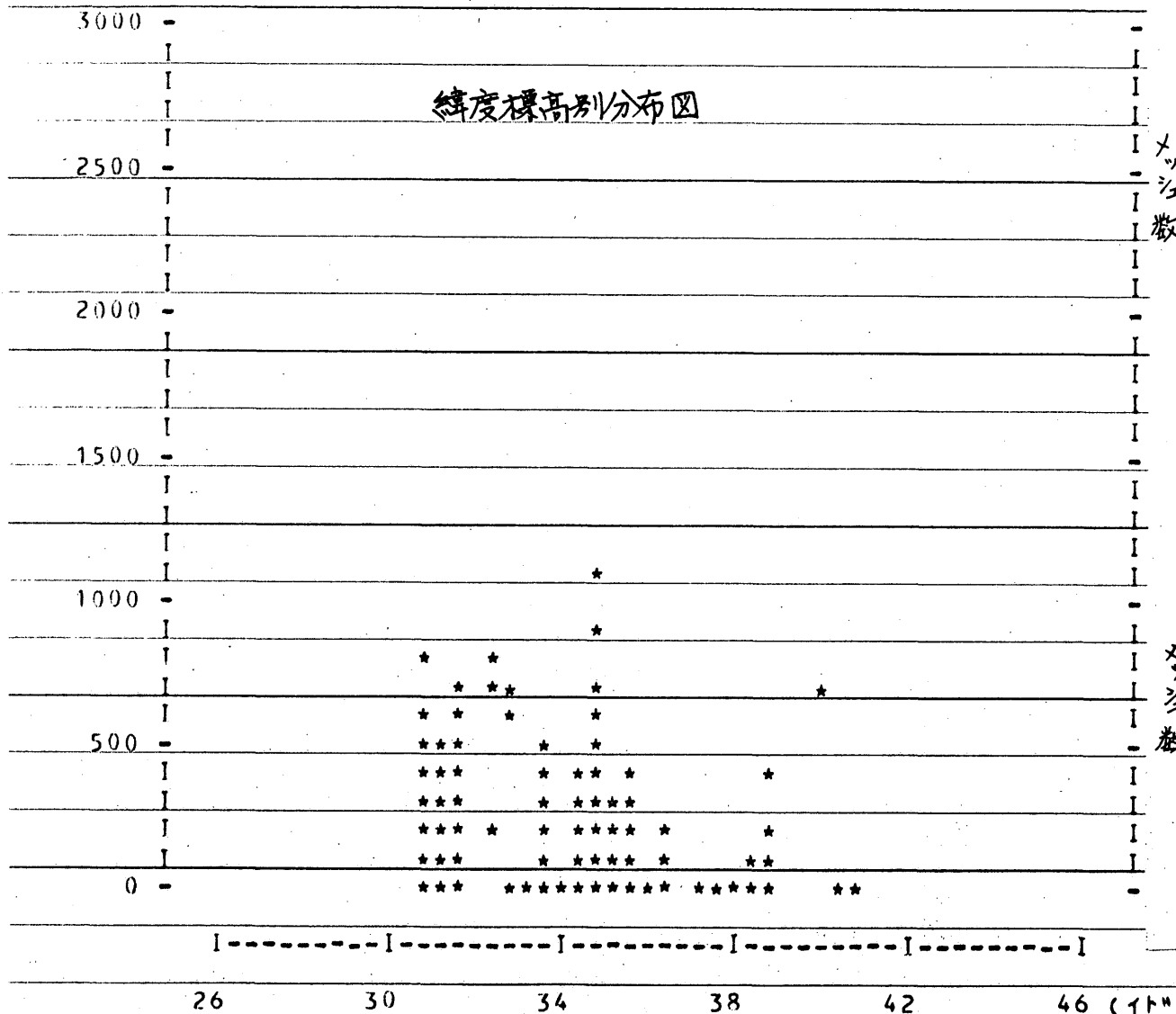
- 県別メッシュ数 1000以上
- 500~999
- 100~499
- 1~99
- * 出現県



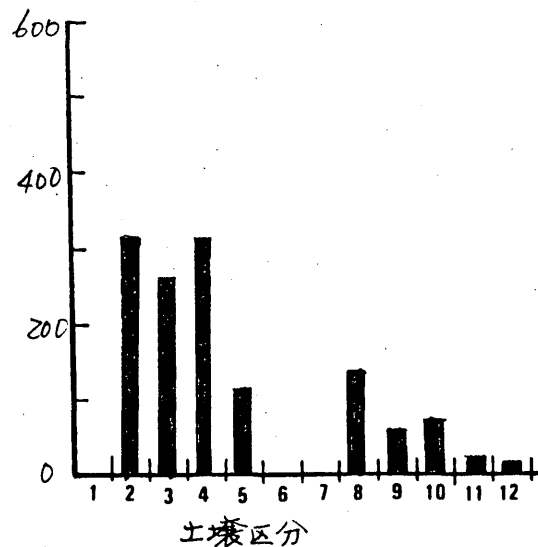
コード	群落名	メッシュ数	出現県
90102A	クロマツ植林	1252	北海道, 青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 茨城, 神奈川, 新潟, 富山, 石川, 岐阜, 静岡, 愛知, 三重, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山, 鳥取, 島根, 山口, 徳島, 香川, 高知, 福岡, 佐賀, 熊本, 宮崎, 鹿児島
90102B	海岸砂丘地-クロマツ植林	10	千葉
	計	1262	



緯度標高別分布図

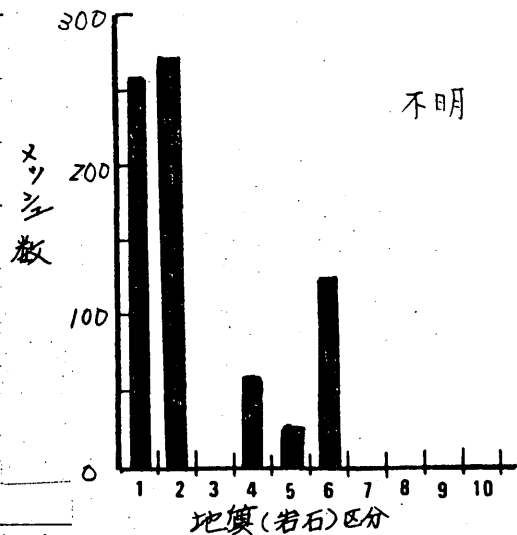


土壌区分別頻度図



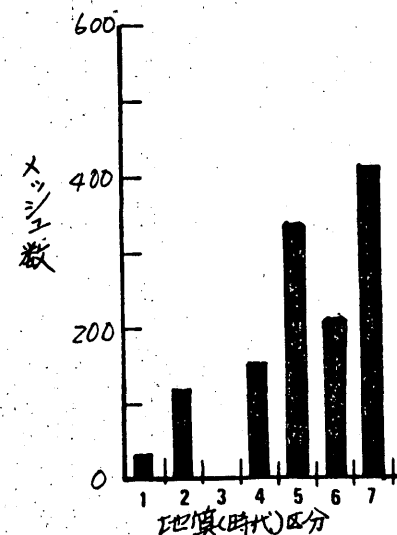
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホトソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他

地質(岩石)区分別頻度図



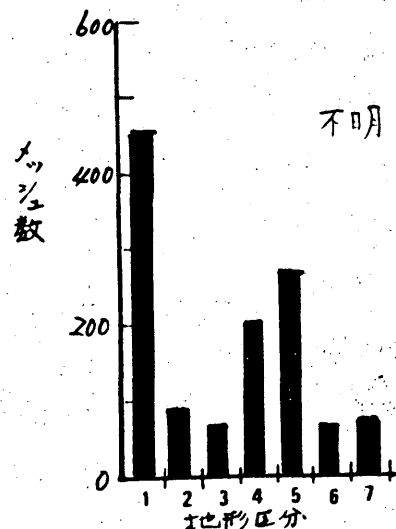
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰, 火山灰砂, 火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (集塊岩, 凝灰岩, 流紋岩, 安山岩, 玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

地質(時代)区分別頻度図



- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

地形区分別頻度図

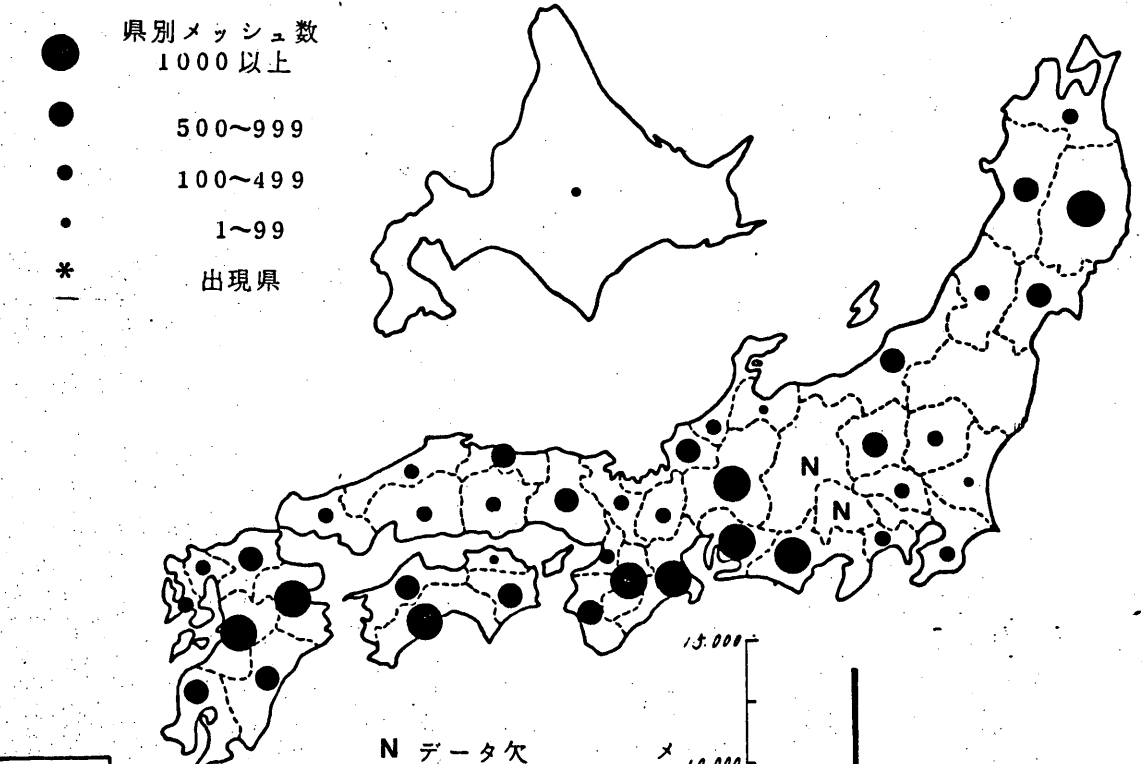


- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地, 残丘
- 6 低地
- 7 河川, 砂州

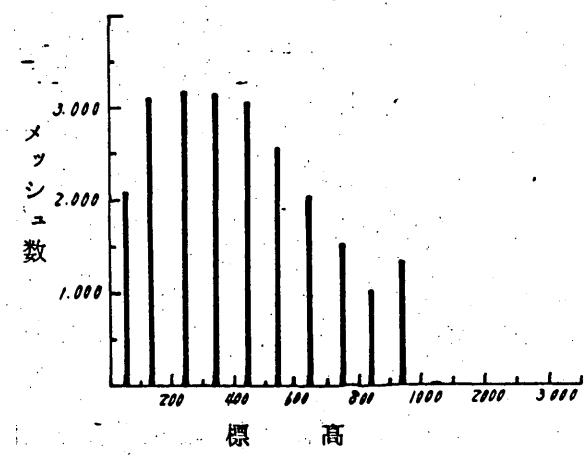
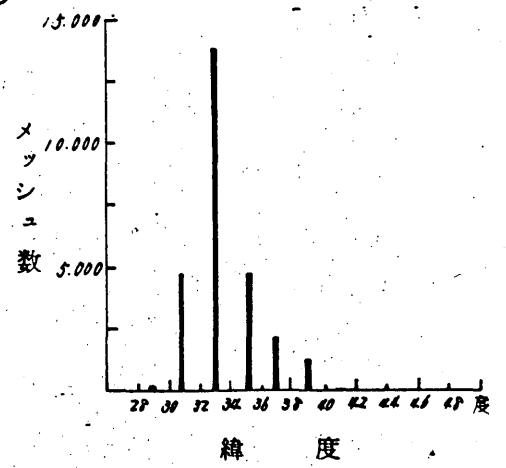
スギ・ヒノキ・サワラ植林 *Cryptomeria japonica*, *Chamaecyparis obtusa*,
Chamaecyparis pisifera plantation

〈相観〉常緑針葉樹の高木林, 亜高木林, 低木林。
 〈生育地〉ヤブソバキフラス域からツツラフラス域にかけて広くみられる。樹種により立地が異なり, スギは谷状地を中心とした湿性~通潤性立地に, ヒノキ, サワラは斜面中部の中や乾性の立地に多く植林されている。スギ, ヒノキ, サワラは自然状態では露岩地や谷状の巨礫堆積地に遺存的に生育するにすぎない。
 〈種組成〉組成は立地, 植林後の経過年数などにより様々である。下伐りが行われていないよく発達した植林では林床にその土地に元来生育していた植物が復元している。すなわち, ヤブソバキフラス域では常緑樹や常緑の草本が多く, ツツラフラス域では落葉樹やササ属植物, 落葉の草本が多くみられる。また立地を反映してスギ植林には湿性~通潤性立地の種群が, ヒノキ, サワラ植林には乾性立地の種群が生育している。
 〈群落の特徴〉常緑針葉樹の植林である。スギは谷状地を中心とする湿性~通潤性立地に, ヒノキ, サワラは斜面中部の中や乾性の立地に植林されることが多い。
 〈その他〉スギ, ヒノキは林業上最も重要な樹種とされ, 全国で拡大造林されている。単一種または少数種による大面積造林は生態学的にも問題が多く, 生育不良な林分もみられる。

*90103 スギ・ヒノキ・サワラ植林



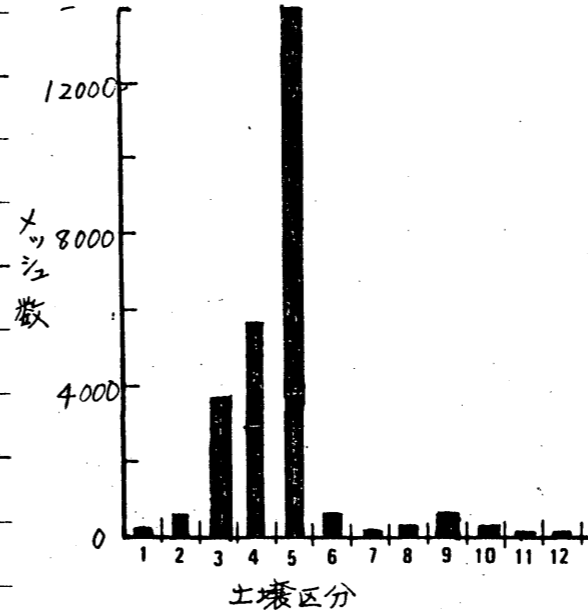
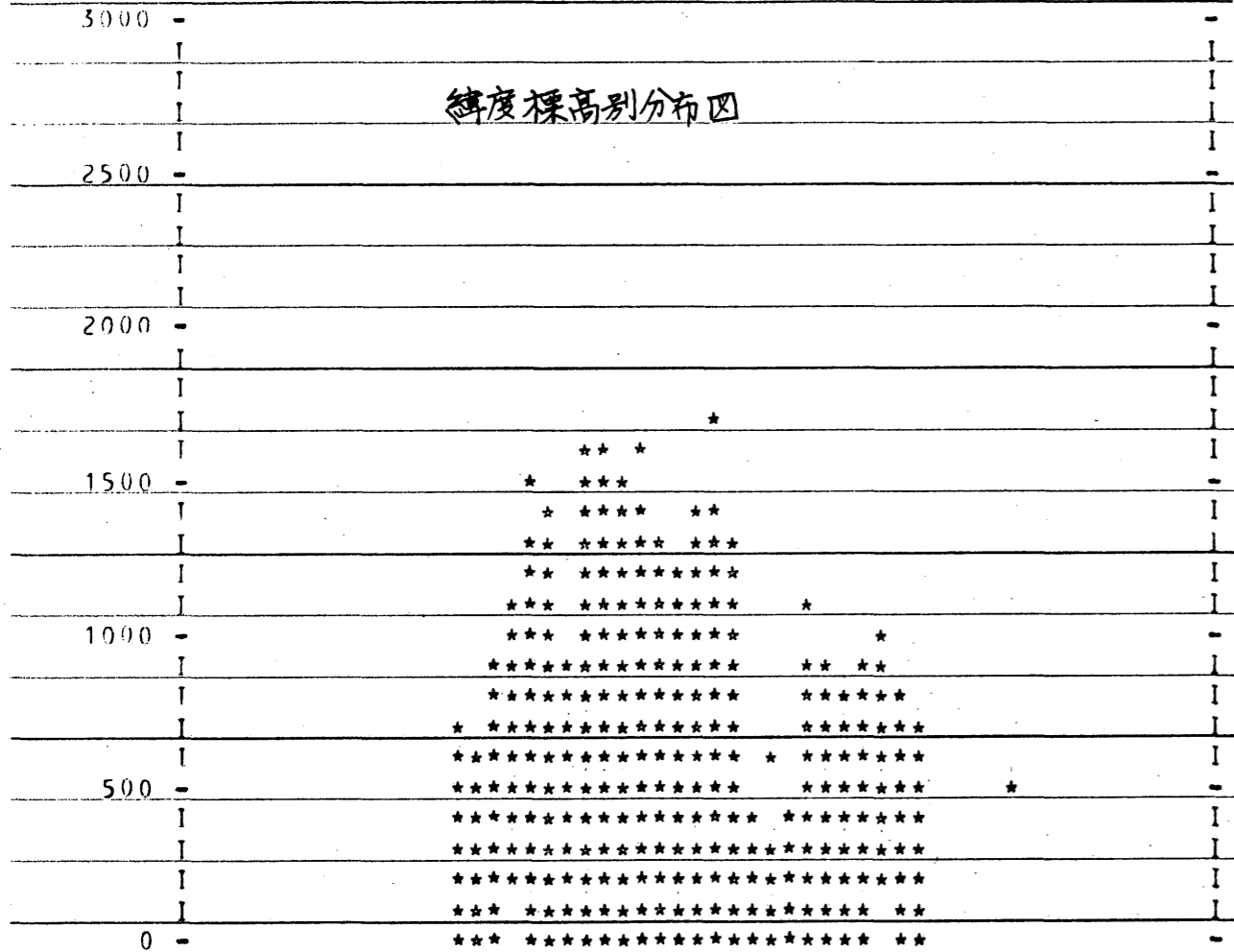
コード	群落名	メッシュ数	出現県
90103A	スギ・ヒノキ・サワラ植林	15352	北海道, 岩手, 栃木, 埼玉, 神奈川, 新潟, 福井, 岐阜, 静岡, 愛知, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 鳥根, 岡山, 広島, 山口, 徳島, 香川, 福岡, 佐賀, 大分, 宮崎
90103B	スギ・ヒノキ植林	9938	宮城, 茨城, 群馬, 千葉, 富山, 石川, 三重, 鳥取, 和歌山, 愛媛, 長崎, 熊本, 鹿児島
90103C	スギ植林	1264	青森, 秋田, 山形
90103D	スギ・ヒノキ・サワラ植林地	-	
	計	16554	



(L3030)

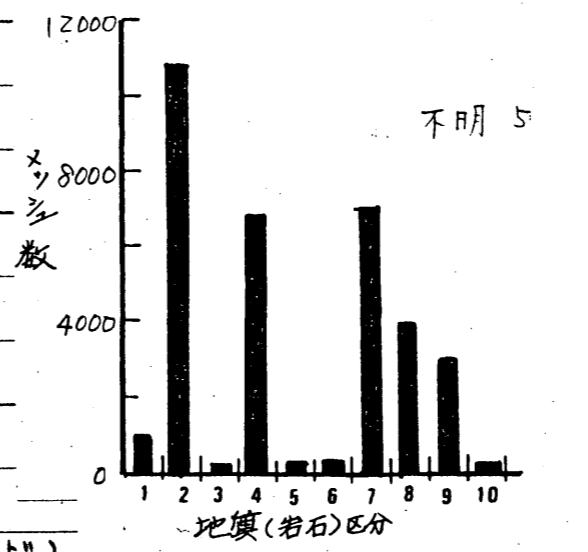
スギ・ヒノキ・サワラ植林 (*90103)

緯度標高別分布図



土壌区分別頻度図

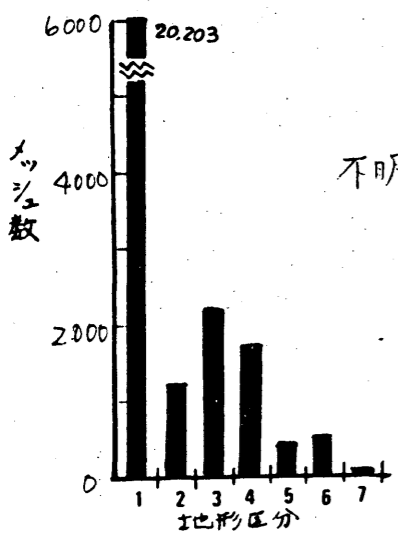
- 1 岩屑土
- 2 未熟土
- 3 黒ボク土
- 4 乾性褐色森林土
- 5 褐色森林土
- 6 湿性褐色森林土
- 7 ホドソル
- 8 赤黄色土
- 9 低地土
- 10 グライ土
- 11 泥炭土
- 12 その他



地質(岩石)区分別頻度図

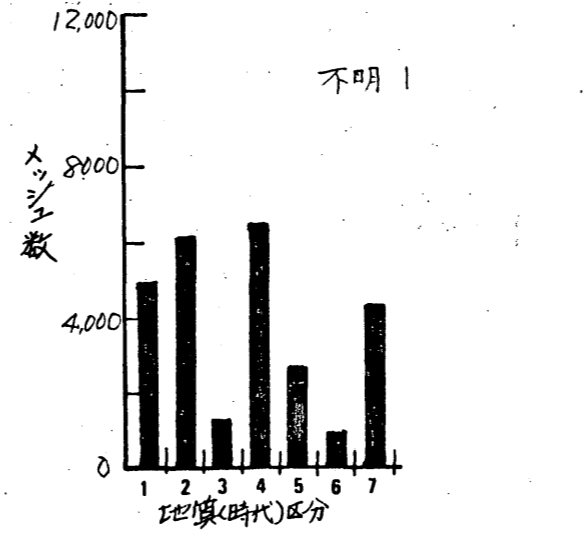
- 1 未固結堆積物
- 2 固結堆積物
- 3 石灰岩
- 4 火山性岩石 (火山灰、火山灰砂、火山碎屑物等)
- 5 シラス
- 6 ローム
- 7 火山性岩石 (安山岩、玄武岩等)
- 8 深成岩
- 9 変成岩
- 10 表示のないもの

26 30 34 38 42 46 (1°N)



地形区分別頻度図

- 1 山地
- 2 山麓地
- 3 火山地
- 4 丘陵地
- 5 台地、緩丘
- 6 低地
- 7 河川、砂州



地質(時代)区分別頻度図

- 1 古生代
- 2 中生代
- 3 古第三紀
- 4 新第三紀
- 5 洪積世
- 6 沖積世
- 7 その他

トドマツ植林

Abies sachalinensis plantation

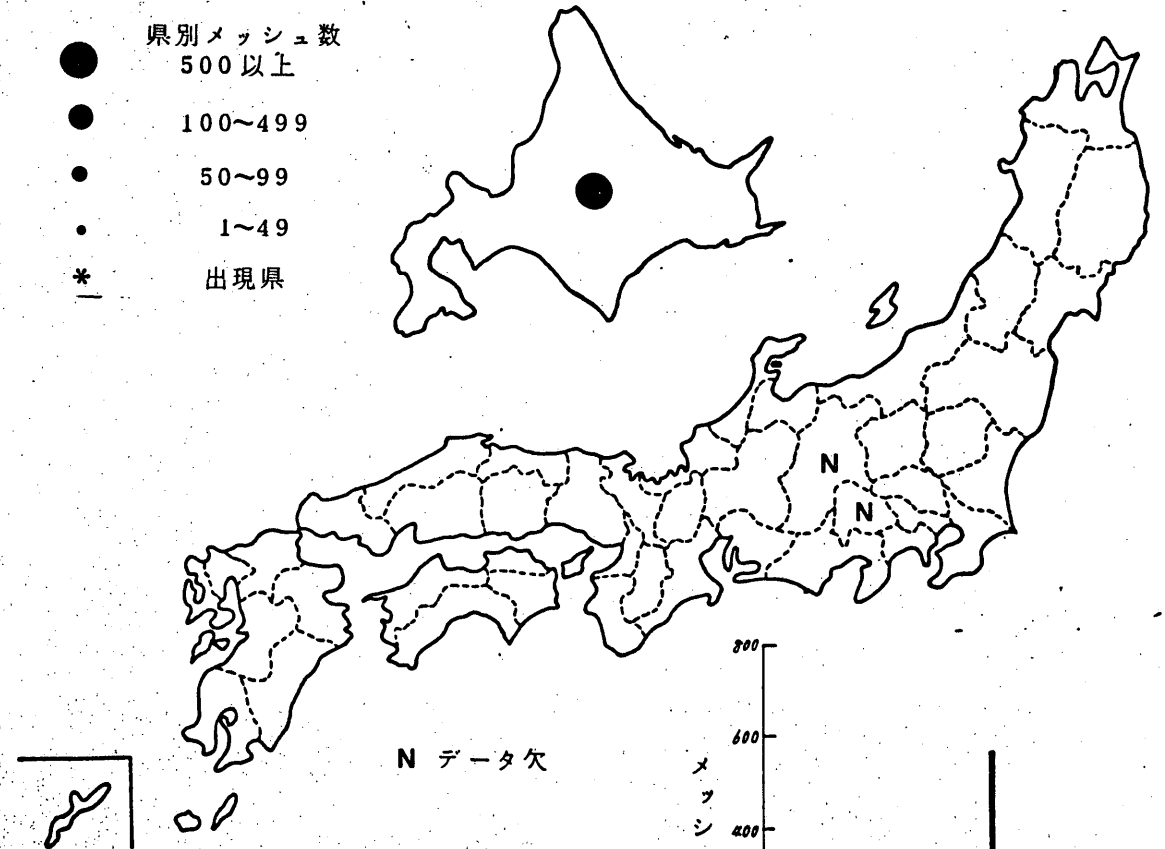
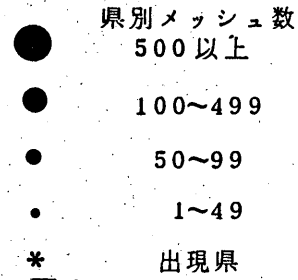
<相観> 常緑針葉樹の高木林, 亜高木林, 低木林.

<生育地> 北海道のフナラス域から亜高山帯にかけて広い面積で見られる.

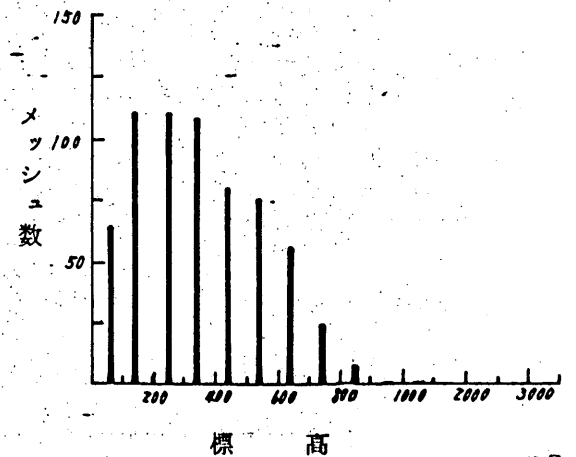
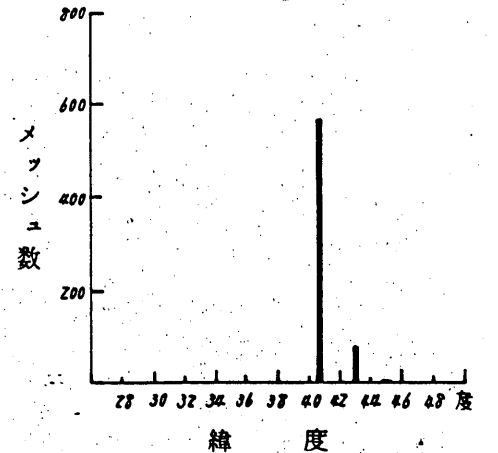
<種組成> 植林後の経過年数や施業の方法などによって種組成は一定でない. ほとんど無植被の場合から, 周辺の森林群落の林床に類似する場合まで様々である. よく発達したトドマツ植林では, コイケヤクソウ, ジンヨウイケヤクソウ, イケヤクソウなどイケヤクソウ類植物が多い.

<群落の特徴> 常緑針葉樹トドマツの植林である. 北海道にエゾマツ植林とともに広い面積で見られる.

*90105 トドマツ植林



N データ欠



コード	群落名	メッシュ数	出現県
90105	トドマツ植林	650	北海道
	計	650	